

令和 6 年度

事 業 概 要



日本赤十字社 福島県支部

Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

Mission statement



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

- わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。
- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るために、苦痛の予防と軽減に努めます。
 - 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
 - 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
 - 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
 - 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
 - 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
 - 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

赤十字事業の推進につきましては、平素から社員の皆様をはじめ、多くの県民の皆様からご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、令和6年度においても、能登半島や山形県での大雨災害、さらには、岩手県大船渡市での山林火災など、全国各地で大規模な災害が発生しました。日本赤十字社では、発災直後から被災地での救護活動を展開しており、7月の山形県における大雨災害に対しては、福島県支部からも「こころのケア班」を派遣し、被災者に寄り添った支援活動を実施いたしました。

また、国外ではウクライナやイスラエル・ガザ人道危機が深刻さを増す中、令和7年3月のミャンマー地震など大規模な自然災害も発生しており、日本赤十字社においても、国際赤十字と連携した幅広い人道支援活動を継続しております。

福島県支部では、自然災害が頻発化・激甚化し、南海トラフ地震など巨大地震の予測もある中、いかなる状況下においても「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命が果たせるよう、災害救護体制の充実・強化や防災教育の普及に力を注いでおります。県民の皆様の防災意識の高まりもあり、令和6年度は防災セミナー・防災教室の開催が回数・参加者数とも前年度実績を大きく上回りました。

このような支部事業は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金（社資）を財源に行われております。令和6年度におきましても、厳しい社会経済情勢の中、県内各地区・分区をはじめ、有功会、奉仕団等赤十字関係者のご努力とご支援、多くの県民や法人の皆様からご協力をいただき、計画していた事業を実施することができました。改めて皆様に心から感謝を申し上げます。

また、福島赤十字病院では、救急医療、地域医療の中核かつ災害拠点病院として、質の高い医療の提供に努めるとともに、福島県赤十字血液センターにおきましても、若年層への献血推進や医療ニーズに即した献血の推進を図りながら、輸血用血液の安定供給に引き続き取り組んでまいります。

今後とも、赤十字の「人道・博愛」の精神に基づき、支部、病院、血液センターが一丸となって県民福祉の向上に貢献できるよう事業推進に取り組んでまいりますので、皆様の変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年9月

日本赤十字社福島県支部

目 次

1	災害救護	1
2	救護看護師の養成	7
3	救急法・健康生活支援講習等の普及	8
4	赤十字奉仕団	13
5	青少年赤十字（JRC）の育成	17
6	社会福祉活動	26
7	国際活動	27
8	広報	29
9	医療事業	31
10	血液事業	34
11	評議員会	37
12	業務監理執行及び会計の監査	37
13	赤十字社員増強運動	38
14	会計報告	44
15	日本赤十字社福島県支部役員名簿	45
	資料編	46

1 災害救護

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動であり、国際的にはジュネーブ諸条約や赤十字国際会議の決議に基づき、国内では日本赤十字社法及び同定款に基づき行われている。

また、災害救助法において国及び都道府県の救助活動に協力する義務が規定され、その具体的な内容については「内閣府（防災担当）との協定」により取り決めがなされている。さらに、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられている。

これらを踏まえ、日本赤十字社は救護規則、防災業務計画等を定め、医療救護、救援物資の備蓄及び配分、血液製剤の供給、支援金の受付、その他応急対応に必要な業務のほか、復旧・復興、防災・減災に関する業務を行っている。

1 災害救護

ア 令和6年7月25日からの大雨災害

令和6年7月25日からの大雨により山形県内では甚大な被害が発生した。この災害に対し、当支部では、日本赤十字社山形県支部からの要請により、こころのケア班を避難所に派遣し、被災者の支援を行った。

(1) こころのケア班の派遣

活動期間	場 所	こころのケア要員
8月19日～22日	酒田市 戸沢村	看護師2人・理学療法士1人・事務職1人 計4人

(2) 令和6年7月25日からの大雨災害支援金の受付 令和6年8月1日～令和7年3月31日

2 救護員の登録

災害に備えて救護班8班を常備し、毎年度更新登録している。

ア 救護員の登録

	医師	看護師長	看護師	主事	助産師	薬剤師	災対本部要員	血液供給要員	合計
日本赤十字社福島県支部		1		7			4		12
福島赤十字病院	44	8	111	65	4	17	20		269
福島県赤十字血液センター				3			12	23	38
合計	44	9	111	75	4	17	36	23	319

イ 令和6年度常備救護班編成表

	第1救護班	第2救護班	第3救護班	第4救護班
医 師	大須賀文彦	佐藤 法義	井上 卓哉	児玉 健太
看護師長	柳田 美穂	清和 彩子	泉 弘子	鈴木 牧子
看 護 師	國分 朋子	成尾ありさ	野木 拓実	中沢 利樹
	高島 雄一	野坂 雄史	安達麻菜美	野地 静香
主 事	佐藤 隆昭	中島 良介	三浦 有樹	濱名 正美
	明田 充弘	村上 風太	幕田 高平	萩原 幸樹



	第5救護班	第6救護班	第7救護班	第8救護班		
医 師	阪本 貴之	菅野有紀子	片岡 政雄	多田 靖宏		
看護師長	鈴木 安英	武井 明美	武田 里美	菅野いづみ		
看護師	三浦 愛	清野 薫	松野 祥子	菊地悠示郎		
	安斎 亜美	菅野 奏	伊藤紗也加	上杉 梢		
主 事	菅野 直樹	金原 昭世	葛岡 大輔	野地 幸次		
	小河原貴之	三浦 義喜	佐藤 勝行	東海林祐実		
薬剤師	緑上 淳一 大竹麻衣子 矢葺 優佳	渡部 寿康 寺内優紀恵 猪股 育美	川村 早苗 菊池 洋平 村上 美里	酒井 亮 古賀 彩織 西丸未希翔	佐藤 南 安斎 英里 太田 昂気	井上可奈子 武藤 芳和 横田 有希
支部連絡調整員	久保 芳宏 戸田 真由	松本 琢也 中村 麻佑	出口 智美 渡邊 純登	野崎 謙司	相澤真理子	矢吹 優舞
こころのケア指導者	岩崎 瞳子 (病院)	高根 晴美 (病院)	國分 花子 (病院)	菅野 直樹 (病院)		
	武田 里美 (病院)	柳田 美穂 (病院)	佐藤 裕子 (病院)	葛岡 大輔 (病院)		
	中島 良介 (病院)	成澤 裕美 (支部)	野崎 謙司 (支部)			

ウ 日本DMAT登録者

医 師	遠藤 豪一 (統括 DMAT) 今野 友貴	市川 剛 (統括 DMAT)	渡部 研一	中村耕一郎
看 護 師	奈良輪弘美 梅宮 誠 北原 麻美	泉 弘子 金成 美和	原田 瑞穂 武田 良平	渡邊あゆみ 鈴木 安英 田島 一樹
業務調整員	渡部 寿康 野崎 謙司	久保 芳宏 松本 琢也	橋本 健一 酒井 亮	野田 誠 三浦 有樹

工 福島県DMAT登録者

医 師	大久保怜子
看 護 師	朝倉 恵実 北村 慶 高橋 健太 伊藤紗也加
業務調整員	鈴木 彩佳 佐藤 龍馬 島田 翔平 佐久間惟代

才 日赤災害医療コーディネートチーム

	氏 名	任 命 職		氏 名	任 命 職
医 師	遠藤 豪一	災害医療コーディネーター	医 師	渡部 研一	災害医療コーディネーター
医 師	市川 剛	災害医療コーディネーター	医 師	中村耕一郎	災害医療コーディネーター
看 護 師	安達 明美	コーディネートスタッフ	看 護 師	渡邊あゆみ	コーディネートスタッフ
看 護 師	奈良輪弘美	コーディネートスタッフ	看 護 師	鈴木 安英	コーディネートスタッフ
看 護 師	泉 弘子	コーディネートスタッフ	看 護 師	武田 里美	コーディネートスタッフ
薬 剤 師	渡部 寿康	コーディネートスタッフ	事務職員	久保 芳宏	コーディネートスタッフ
事務職員	野田 誠	コーディネートスタッフ	事務職員	野地 幸次	コーディネートスタッフ
事務職員	松本 琢也	コーディネートスタッフ	事務職員	野崎 謙司	コーディネートスタッフ
事務職員	葛岡 大輔	コーディネートスタッフ	事務職員	中島 良介	コーディネートスタッフ

力 福島県災害医療コーディネーター

遠藤 豪一 渡部 研一 市川 剛 久保 芳宏



キ 日赤原子力災害医療アドバイザー

中村耕一郎 海藤 隆紀

ク 原子力災害時医療中核人材研修修了者

医 師	中村耕一郎
看 護 師	成澤 裕美 小林 洋子 岩崎 瞳子 鈴木 牧子 黒沢真由美 清和 彩子 柳田 美穂
診療放射線技師	海藤 隆紀 玉根 勇樹 明田 充弘
事務職員	葛岡 大輔

③ 救護訓練及び研修

ア 災害救護訓練

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①福島市総合防災訓練	5月11日(土)	福島市	支部1 病院6 ボランティア3
②日赤福島県支部災害救護訓練	7月13日(土)	福島県支部	病院52 血セ3 支部8 他病院10
③日赤福島県支部奉仕団災害救護訓練	7月27日(土)	いわき市	支部3 奉仕団員43
④福島県災害対策本部図上訓練	8月7日(水)	福島県庁	支部1
⑤大規模地震時医療活動訓練	9月28日(土)	東京都・千葉県	支部1 病院6
⑥日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練	10月3日(木)~5日(土)	北海道北見市	支部3 病院8
⑦北海道・東北ブロック血液センター合同災害対応訓練	10月4日(金)	血液センター	血液センター
⑧福島県総合防災訓練	10月19日(土)	伊達市	支部3 病院6
⑨福島県多数傷病者対応訓練	11月1日(金)	富岡町	支部1 病院6
⑩福島県原子力防災訓練(医療中継拠点設置運営訓練)	11月9日(土)	田村市	支部2 病院6
⑪福島県国民保護共同実働訓練	11月14日(木)	白河市	支部1 病院6
⑫福島県原子力防災通信連絡訓練	6月10日(月)	-	支部1
	11月15日(金)		
	令和7年 1月21日(火)		
⑬福島県石油コンビナート総合防災訓練	2月7日(金)	広野町	支部2 病院6
⑭福島赤十字病院院内災害訓練	3月1日(土)	赤十字病院	病院76 支部1 看護学生13
⑮福島県DMAT衛星電話通信訓練	3月11日(火)	-	支部1 病院1

イ 研修会・会議

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①救護業務担当課長会議・救護業務担当者研修会	5月10日(金)	Web	支部3
②防災教育主任指導者研修	5月17日(金)	Web	支部1
③災害派遣医療チーム研修	5月22日(水)~24日(金)	仙台市	病院1
④第1ブロック支部事業推進課長会議	6月6日(木)~7日(金)	青森県支部	支部1



名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
⑤第2回東北ブロック DMAT 技能維持研修	6月11日(火)	仙台市	支部1 (講師) 病院5
⑥救護員としての赤十字看護師研修	6月12日(水) 11月12日(火)	病院	看護師
⑦統括 DMAT 研修	6月17日(月)~18日(火)	東京都	病院1
⑧第1回日赤災害医療コーディネート研修会	7月5日(金)~6日(土)	本社	支部1 (スタッフ) 病院1
⑨原子力災害対応にかかる研修作業部会	8月8日(木)~9日(金)	本社	支部1 病院2
⑩防災教育主任指導者研修 (フォローアップ研修)	9月4日(水)~5日(木)	本社	支部1
⑪国内災害救護共有サイト説明会	9月13日(金)	Web	支部1
⑫第1ブロック赤十字救護班研修会	9月21日(土)~22日(日)	石巻市	支部2 病院3 (スタッフ) 支部1 病院6
⑬原子力災害対応にかかる研修作業部会	10月31日(木) 11月1日(金)	本社	病院2
⑭第3回東北ブロック DMAT 技能維持研修	11月19日(火)	仙台市	支部1 講師1 病院1
⑮第2回日赤災害医療コーディネート研修会	11月23日(土)~24日(日)	本社	支部1 (スタッフ) 支部1
⑯福島県 DMAT 研修	11月23日(土)~24日(日)	医大駅前キャンパス	支部1 (講師) 病院5
⑰原子力災害時の救護研修	11月23日(土)~24日(日)	鹿児島市	病院2 (講師)
⑱日赤災害医療コーディネート研修プログラム検討部会	4月26日(金)	Web	支部1
	5月30日(木)	Web	
	6月19日(水)	本社	
	9月30日(月)	Web	
⑲福島県災害派遣福祉チーム養成研修基礎研修	令和7年 1月28日(火)~29日(水)	郡山市	病院1
⑳危機対策連絡会 (国民保護検討会)	1月29日(水)	仙台市	支部1
㉑防災スペシャリスト養成研修	2月4日(火)~7日(金)	東京都	支部1
㉒原子力災害医療アドバイザー会議	2月4日(火)~5日(水)	本社	病院1
㉓救護員を対象としたこころのケア研修	2月8日(土)	赤十字病院	支部4 センター3 病院18
㉔日赤災害医療コーディネート フォローアップ研修	2月15日(土)	Web	支部2 病院8 支部1 (スタッフ)
㉕都道府県災害医療コーディネーター研修	2月16日(日)	本社	病院1 支部1 (スタッフ)
㉖全国原子力災害医療連携推進協議会	2月20日(木)	Web	支部1
㉗福島県災害派遣福祉チーム養成研修 スキルアップ研修Ⅱ	2月25日(火)~27日(木)	郡山市	病院1
㉘福島市防災会議	2月5日(水)	福島市	支部1
㉙福島県救急医療対策協議会	2月25日(火)	福:県庁	支部1
㉚福島県防災会議幹事会議	2月26日(水)	書面開催	支部1
㉛福島県原子力災害時医療連携 ネットワーク会議	3月12日(水)	書面開催	支部1
㉜福島県災害医療対策協議会	3月19日(水)	書面開催	支部1
㉝福島県原子力災害医療対策協議会	3月19日(水)	書面開催	支部1
㉞福島県防災会議	3月25日(火)	福島県庁	支部1
㉟福島 DMAT 調整会議	3月28日(金)	Web	支部2 病院2



4 災害弔慰金の贈呈

火災並びに自然災害等による死亡者の遺族代表者に弔慰金10,000円を贈る。

	件 数	金 額
弔 慰 金	19件	220,000円

5 救援物資の配分

「支部災害救援物資取扱要綱」に基づき、以下のとおり配布した。

		前年度 継 越	本社等 受 入	購 入	戻入等	被害者へ の配分	他支部へ の払出	転用等	本年度末 残 数
支 部	バ 斯 タ オ ル	2,726				193			2,533
本 社	毛 布	5,625				374			5,251
	緊 急 セ ッ ト	3,055			6	99			2,962
	安 眠 セ ッ ト	472							472
	タ オ ル ケ ッ ト	499		400		10			889

6 災害義援金（国内）受付状況 表中()内は累計

(令和7年3月31日現在)

義 援 金 名	件 数	金 額
①令和6年能登半島地震災害義援金	169 (820)	29,851,054円 (186,746,343円)
②令和6年7月25日からの大雨災害義援金	93	1,572,905円
③令和6年9月能登半島大雨災害義援金	154	8,738,443円
④令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	54	155,232円
⑤令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	82	2,456,177円

※災害義援金は、被災都道府県に設置される災害義援金配分委員会を通じて被災者へ全額配分される。

7 赤十字防災ボランティアの養成

ア 福島県支部奉仕団合同災害救護訓練

防災支援奉仕団と地域奉仕団と共に災害時に活動できるよう「福島県支部奉仕団合同災害救護訓練」を県内持ち回りで開催している。

イ 登録者数

防災ボランティアリーダー 8名
防災ボランティア地区リーダー 145名

8 救護資材

ア 県支部保有の主な救護資材

(令和7年3月31日)

資 材 名	支 部	病 院	地区分区
移 動 式 炊 飯 器	8組		338組
移動式炊飯器(灯油式)	2組		
医 療 セ ッ ト		2組	

資 材 名	支 部	病 院	地区分区
携 帯 用 医 療 セ ッ ト	1個		
携 帯 用 救 護 カ バ ン	2個	3個	
医療資器材携行用カバン	16個		



資材名	支部	病院	地区分区
ノート型パソコン	2台	3台	
モバイルプリンター	3台		
プロジェクトター	3台		
折りたたみいす	10台		
診察台	2台		
トリアージシート	1組	1組	
担架	24台		73台
ヘッドランプ	31台	6台	
災害救援用ハンドビーム	2台		
ランタン(15W)	4台	6台	
ランタンスタンド	4台	1台	
投光器	3台		20台
移動発電機	9台		67台
蓄電池(大)	2台		
蓄電池(大)専用ソーラーパネル	2台		
蓄電池(小)	3台		
蓄電池(小)専用ソーラーパネル	3台		
モバイルバッテリー	2台		91台
天幕(3間×2間)	12張		7張
//(1.5間×2間)	4張		242張
エアーテント(4m×5m)	2張	1張	
//(6m×6m)	3張		
ワンタッチテント(3m×6m)	5張		310張
ドラッシュテント(フレームテント)XB	1張		
折りたたみ寝台	39台	40台	136台
担架ベッド	2台		
患者用毛布	50枚	50枚	
自動式ポータブルトイレ	10台		
携帯トイレ	3個		
トイレ用テント	11張		
ストーブ	4台		
救護所用冷暖房機器	2台		
救護員作業衣(夏用)	20着	50着	
//(冬用)	20着	50着	
ヘルメット	25個	35個	203個
雨具	98着	25着	
防寒衣	16着		
防寒服(上・下)	30着		
救護員用Tシャツ	60着	135着	
全国救護員用Tシャツ	140着		
ダウンジャケット	25着	20着	
編上靴	52足	36足	
防じんゴーグル	12個	6個	
寝袋	25個		

資材名	支部	病院	地区分区
キャンピングマット	27枚		
携行バッグ	20個	40個	
携行キャリーバッグ	16個	24個	
救護資材倉庫			203棟
ローラーコンベア(電動)	5台		
//(手動)	1台		
救急車	1台	2台	
医療派遣用自動車	1台	1台	
災害救援車	8台	1台	112台
普通自動車	1台		
折りたたみ自転車	1台		
4折テープル	4台		
折りたたみリヤカー	1台		
超短波無線機(157MHz)基地局	1局		
地上移動局(157MHz)	17局	5局	
超短波無線機(415MHz)基地局	1局		
地上移動局(415MHz)	18局	10局	
小電力トランシーバー	12台		
携帯電話・データ端末	8台		
衛星携帯電話	6台	5台	
//(可換型)	(3台)	(3台)	
//(車載)	(3台)	(2台)	
メガホン(拡声器)	8台		
携帯ラジオ	9台		
電子血圧計	1台		
医療セット置台	3台		
点滴スタンド	5台		
AED一式	4台		
AED(携帯用)一式	6台	1台	112台
災害救護活動用ベスト			245着
DMAT装備一式			1式
NBC災害対応除染セット一式			1式
防護服セット	58組		
デジタル個人線量計	38個	20個	
空間線量率測定用サーベイメータ			1台
身体汚染スクリーニング用GMサーベイメータ			1台
救護用ヒップバッグ	5個	15個	
反射チョッキ	40着	20着	
担架置台	5組		
救命胴衣	6着		24着
防災ボランティア雨具	50着		
アコードィオンスクリーン	2台		
折畳式ホワイトボード	1台		

イ 災害救護装備の充実

災害救援物資の輸送等のため各地区・分区に120万円を上限に赤十字救援車購入の経費の一部を補助した。また、当支部赤十字救援車の更新を行った。

赤十字救援車配置(助成)	4台	福島市信陵分区 喜多方市高郷分区	中島村分区 飯館村分区
赤十字救援車(支部)	2台	救援車1台(更新)	トラック1台(本社財源)

2

救護看護師の養成

国際的な救護活動、高齢社会への適切な対応ができる優れた看護師を養成するため、赤十字理念を建学の精神としている日本赤十字看護大学等で学び、赤十字に対し深い理解と熱意をもつ学生に奨学金を貸与し、救護看護師を養成している。

① 奨学金貸与

学校名	1年	2年	3年	4年	計
日本赤十字秋田看護大学	—	1人	1人	3人	5人
日本赤十字看護大学	—	—	—	—	—
日本赤十字北海道看護大学	—	—	1人	—	1人
合 計	—	1人	2人	3人	6人

※奨学金貸与額：年間60万円（月額5万円）を上限として貸与している。

② 日本赤十字秋田看護大学 赤十字特別推薦

日本赤十字秋田看護大学に入学を希望し、福島赤十字病院に看護師として就職を希望する高校生を対象に選考会を行い、福島県支部長より推薦している。（令和6年度応募者なし）

③ 救護員としての赤十字看護師研修

福島赤十字病院に看護師として採用された職員に対して、「救護員としての赤十字看護師」として登録任命されるために必要な知識、技術を習得させることを目的に実施している。

月 日	場 所	参 加 者	内 容
6月12日(水) 7月13日(土) 11月12日(火)	福島赤十字病院	看護師 14名	赤十字概論 災害看護論



3

救急法・健康生活支援講習等の普及

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、講習をとおして救急法等の普及に取り組んでいる。

当支部においても、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」「健康生活支援講習」の各講習を実施し、事故防止や人命を救う方法、健康で安全に暮らすための知識と技術の普及に努めている。

① 講習会の実施状況

ア 救急法

日常生活における事故防止の知識と、思わぬ事故や急病の人を医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当などの知識と技術を普及している。

心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）の使い方、気道異物除去の方法を学ぶ救急法基礎講習（4時間）を実施した。



講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法	基礎講習（4時間）	25	534	533	533
	救急員養成講習（12時間）	16	254	253	253
	短期講習	191	6,758	—	—
	計	232	7,546	786	786

イ 水上安全法

水と親しみ水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、救命手当などの知識と技術を普及している。



講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
水上安全法	救助員養成Ⅰ（14時間）	1	19	18	15
	救助員養成Ⅱ（12時間）	—	—	—	—
	短期講習	66	2,671	—	—
	計	67	2,690	18	15

ウ 幼児安全法

幼児期に起こりやすい事故とその予防、万一事故が起きた場合の心肺蘇生法とAEDの使い方、気道異物除去など救命手当及び応急手当の仕方、かかりやすい病気と看病の仕方などの知



識と技術を普及している。

短期講習「災害時の乳幼児支援」においては、バンダナ、レジ袋を使用したきずの手当てを行った。

講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習(12時間)	2	22	21	21
	短期講習	37	752	—	—
	計	39	774	21	21



幼児安全法



健康生活支援講習

工 健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を、すこやかに迎えるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術を普及している。

「認知症サポーター養成講座」は、福島市と共同開催しており、地域のボランティア活動につながることが期待される。

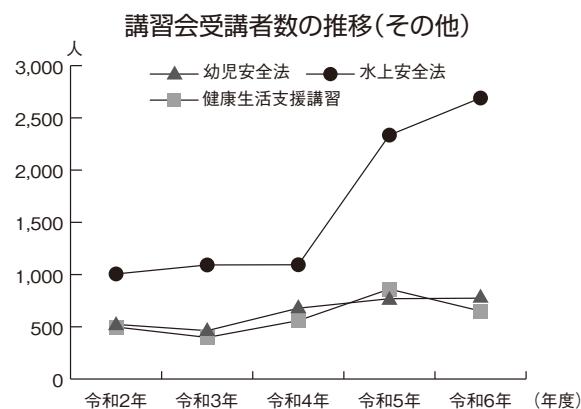
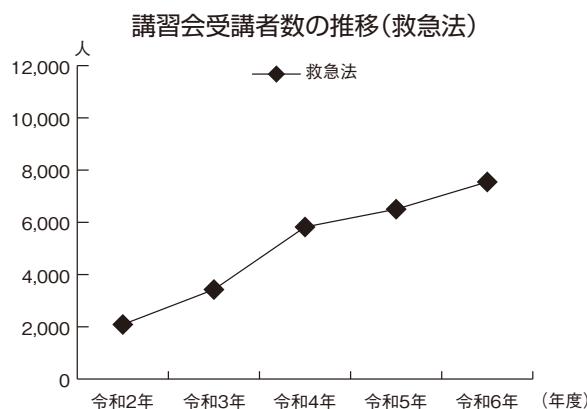
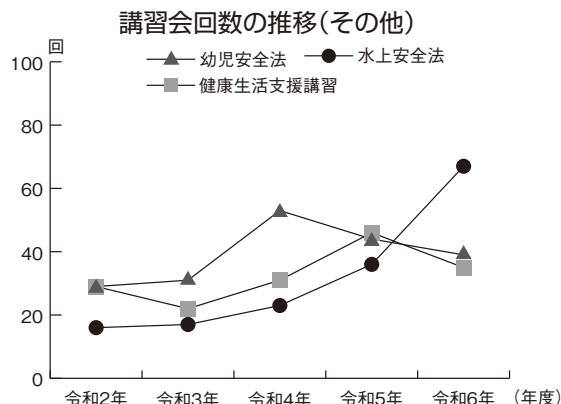
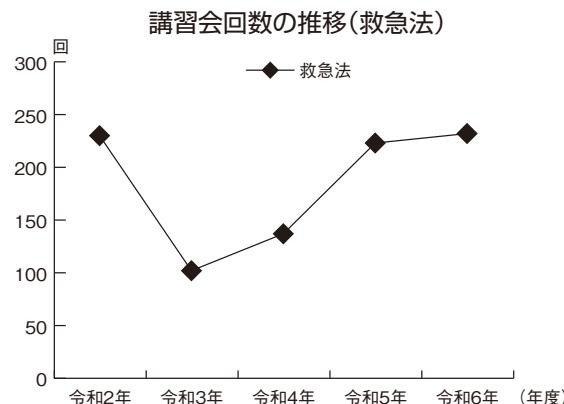
講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習(12時間)	5	44	44	44
	避難生活支援講習	8	256	—	—
	認知症サポーター養成講座	11	140	140	140
	その他	11	211	—	—
計		35	651	184	184

② 講習会の開催(合計)

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法	232	7,546	786	786
水上安全法	67	2,690	18	15
幼児安全法	39	774	21	21
健康生活支援講習	35	651	184	184
計	373	11,611	1,009	1,006

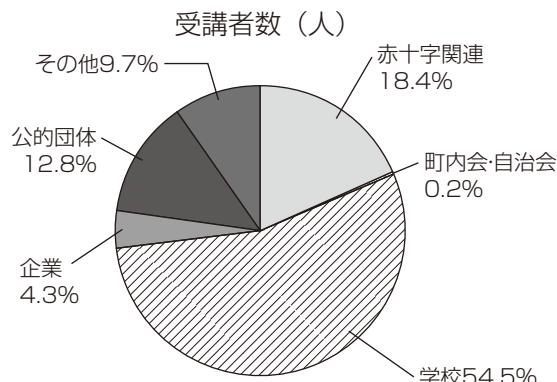


3 救急法・健康生活支援講習等の普及



3 講習会受講者内訳

		受講者数(人)
赤十字関連		2,151
町内会・自治会		23
学校		6,362
企業		506
公的団体		1,490
その他の		1,134
計		11,666



4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会

対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・指導者協議会

内容：心肺蘇生・AEDについて学ぶ救急法短期講習や、水の事故から身を守るために着衣泳等を開催した。

	開催数(回)	受講者(人)
小学校	82	2,831
中学校	36	2,734
高等学校	12	346
特別支援学校	4	141
指導者協議会	9	176
合計	143	6,228



JRC 加盟校を対象とした救急法等講習会



5 防災セミナー

本社における「赤十字防災教育プログラム」の普及推進方針を受け、「防災セミナー」として地域防災に役立つ知識や技術の普及を行った。

防災セミナー開催状況

内 容	回 数(回)	受講数(人)
災害への備え（講演）	57	2,383
災害エスノグラフィー	0	0
災害図上訓練（DIG）	4	641
避難所運営ゲーム（HUG）	16	715
災害時の応急手当	3	90
非常食作り	30	1,010
災害時シミュレーション	0	0
その他	7	299
合 計	117	5,138

※防災教室等で行った防災セミナーのメニューも含む（P22～P24参照）

6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力

行政、企業などが実施したイベントにブースを出し、防災思想の普及を図った。

10/5(土)	イオンモールいわき小名浜「いわき防災 EXPO」
11/2(土)	福島県「そなえる・ふくしま2024」

7 会議・研修会

研 修 会 名	開 催 日	場 所	参 加 者 (人)
①赤十字講習担当課長会議	4月26日(金)	Web	支部2
②赤十字講習担当者研修会	5月23日(木)～24日(金)	神奈川県支部	支部1
③赤十字健康生活支援講習講師研究会	7月24日(水)～25日(木)	本社	病院1
④第一回赤十字講習推進委員会	8月19日(月)～20日(火)	本社	支部1
⑤健康生活支援講習講師研修会	10月3日(木)～4日(金)	本社	病院1
⑥救急法講師研修会	12月17日(火)～18日(水)	本社	支部1 ボランティア1
⑦赤十字健康生活支援講習指導員養成講習	11月6日(水)～10日(日)	山形県支部	支部講師1 支部2
⑧水上安全法講師研修会	令和7年 2月4日(火)～5日(水)	東京都	支部1
⑨救急法等指導員研修会	2月23日(日)～24日(月) 3月21日(金)	福島県支部	救急法等指導員84



8 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数

(令和7年3月31日現在)

講習会	ボランティア(人)			職員(人)			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
救急法	46	31	77	14	9	23	60	40	100
水上安全法	12	2	15	2	0	2	14	2	16
幼児安全法	17	13	30	6	3	9	23	16	39
健康生活支援講習	2	13	15	1	11	12	3	24	27

9 救急法等講師名簿

各講習会の指導員を養成する指導員養成講習の指導者となる。

(令和7年3月31日現在)

講習会	氏名		
救急法	久保 芳宏	野崎 謙司	石田 政幸
水上安全法	久保 芳宏	野崎 謙司	
幼児安全法	武田 玲子	車田 真美	
健康生活支援講習	武田 玲子	車田 真美	岩崎 瞳子

4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、明るく住みよい地域社会を築きあげていくために結成された地域奉仕団、青年や学生の若い力を社会のために役立てようと結成された青年奉仕団、特技を活かして社会に奉仕する特殊奉仕団が、共通の理念にたってそれぞれの持ち味を活かした奉仕活動を実践している。また、災害時には住民の立場になり奉仕活動を行うため、日頃から訓練を行って災害に備えている。



福島県支部大会議室での
方部赤十字奉仕団連絡協議会会議



大玉村農村環境改善センターでの防災セミナー
(大玉村赤十字奉仕団ほか)

1 結成状況

(令和7年3月31日現在)

奉仕団種別	団 数	構 成		
		男(名)	女(名)	計(名)
地域赤十字奉仕団	104	896	7,026	7,922
青年赤十字奉仕団	4	49	89	138
特殊赤十字奉仕団	34	972	225	1,197
計	142	1,917	7,340	9,257

2 福島県支部委員会

赤十字奉仕団福島県支部委員会は、方部赤十字奉仕団連絡協議会会長と特殊奉仕団から県賛助奉仕団委員長、県防災支援連絡協議会会長で構成し、福島県支部管内の各奉仕団の活動に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

福島県支部委員会役員

(令和7年3月31日現在)

役 員	氏 名	所 属
委 員 長	佐原和佳子	喜多方市赤十字奉仕団委員長
副委員長	浜尾 和子	富久山町赤十字奉仕団委員長
副委員長	松田 貞夫	福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長



③ 方部赤十字奉仕団連絡協議会

方部名	令和6年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和6年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和6年度 方部会長奉仕団名
福島	湯野 赤十字奉仕団	須賀川・岩瀬	須賀川市 赤十字奉仕団	両沼	三島町 赤十字奉仕団
伊達	靈山町 赤十字奉仕団	白河市	白河 赤十字奉仕団	南会津	南会津町伊南 赤十字奉仕団
安達	二本松市 赤十字奉仕団	西白河	泉崎村 赤十字奉仕団	いわき	常磐方部 赤十字奉仕団
郡山	富久山町 赤十字奉仕団	東白川	矢祭町 赤十字奉仕団	相馬	原町 赤十字奉仕団（暫定）
田村	三春町 赤十字奉仕団	会津若松	会津若松市 赤十字奉仕団	双葉	休止
田村市	大越町 赤十字奉仕団	北会津	猪苗代町 赤十字奉仕団	県賛助奉仕団	福島県委員長
石川	浅川町 赤十字奉仕団	喜多方	喜多方市 赤十字奉仕団	県防災支援連協	いわきアマチュア無線 赤十字奉仕団

④ 赤十字奉仕団指導講師（8名）

(令和7年3月31日現在)

福島市	松田 貞夫	郡山市	安田 悠子
福島市	土屋 悅男	会津若松市	栗城 美保
福島市	佐藤 敦子	いわき市	飯間香保子
福島市	福地 敏教	相馬市	高橋 誠

⑤ 会議、研修会

名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
①第1回青年赤十字奉仕団全国協議会	5月11日(土)	WEB会議	青奉参加なし 支部職員1
②奉仕団委員長会議	5月27日(月) ~28日(火)	郡山市	奉仕団員、指導講師、 支部職員
③奉仕団支部指導講師会議	5月27日(月)	郡山市	支部指導講師、支部職員
④奉仕団中央委員会	5月30日(木) ~31日(金)	本社	県委員長1
⑤第1ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月15日(土) ~16日(日)	秋田県支部	青奉1
⑥奉仕団担当者研修会	7月5日(金)	WEB	支部職員1
⑦全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月10日(水) ~11日(木)	本社	全国賛助顧問1 賛助奉県委員長1
⑧全国ボランティアリーダー研修会	8月26日(月) ~28日(水)	東京都	参加なし
⑨令和6年度全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会第1ブロック研修会	10月30日(水) ~31日(木)	宮城県支部	賛助奉県委員長1 賛助奉県事務局長1
⑩赤十字奉仕団中央委員会常任委員会	12月6日(金)	本社	県委員長1
⑪第2回青年赤十字奉仕団全国協議会	令和7年 1月18日(土)	Web	支部職員1
⑫奉仕団方部連絡協議会長会議	1月23日(木)	福島市	会長、支部職員



名 称	開 催 日	会 場	参加者(人)
⑬赤十字奉仕団支部指導講師研修会	1月25日(土) ～27日(月)	本社	指導講師 1
⑭支部奉仕団リーダー研修会	2月20日(木) ～21日(金)	会津若松市	中止
⑮全国賛助奉仕団協議会第2回役員会	3月11日(火) ～12日(水)	本社	全国賛助顧問 1

6 協 力

赤十字新聞発送作業協力（県北賛助奉仕団、日赤福島ボランティア会）

毎月2日間 延べ24日 337人

7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く）

赤十字奉仕団指導講師等の協力を得て、赤十字奉仕団の研修会を開催している。

赤十字奉仕団名	内 容	派遣講師(人)
会津美里町高田赤十字奉仕団	防災教育 防災4：災害時シミュレーション	指導講師 1
郡山市赤十字奉仕団	基礎研修2	指導講師 1
郡山市赤十字奉仕団	防災セミナー 防3：災害時生活支援講習	指導員 1
東白川方部赤十字奉仕団連絡協議会	防災セミナー 防1：災害への備え	支部職員 1
国見町赤十字奉仕団	基礎研修1	指導講師 1
飯館村赤十字奉仕団	基礎研修3、 防災セミナー 防1：災害への備え	指導講師 1
滝根町赤十字奉仕団	防災セミナー 防3：災害時生活支援講習	指導員 1
四倉方部赤十字奉仕団	基礎研修1	指導講師 1

8 令和6年度赤十字ボランティアのつどい（第13回）

開 催 日	令和6年10月30日(水)
場 所	郡山市・ビッグパレットふくしま
参 加 者	赤十字奉仕団員、有功会員、関係者 約440名
内 容	<p>1 表彰 奉仕団功労表彰 14件、奉仕団員等奉仕者功労表彰 348件 有功会功労表彰 4件、有功会役員等功労表彰 16件 地元紙2紙に受章者名簿を掲載</p> <p>2 講演 「令和6年度能登半島地震災害救護活動について」 福島赤十字病院 循環器内科 主任部長 渡部 研一 医師</p>



佐藤副支部長から表彰伝達



講演



9 令和6年度赤十字奉仕団と団員数現況

(令和7年3月31日現在)

地域奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	飯野町	0	58	58
2	川俣町	0	150	150
3	平野(たんぽぽうし団)	0	40	40
4	飯坂	0	91	91
5	湯野	0	59	59
6	福島希望	2	16	18
7	吉井田	0	7	7
8	伊達	5	34	39
9	保原町	4	196	200
10	梁川町	0	8	8
11	月館町	0	158	158
12	靈山町	0	54	54
13	桑折町	1	38	39
14	国見町	500	1,500	2,000
15	大玉村	0	33	33
16	二本松市東和	0	72	72
17	二本松市	0	33	33
18	安達	0	35	35
19	二本松市岩代	0	32	32
20	本宮市本宮	3	73	76
21	本宮市白沢	0	46	46
22	郡山市	8	24	32
23	田村町	0	46	46
24	日和田町	0	26	26
25	富久山町	1	31	32
26	須賀川市	14	121	135
27	鏡石町	0	24	24
28	天栄村	7	24	31
29	三春町	0	3	3
30	小野町(すみれ会)	0	33	33
31	都路町	0	48	48
32	船引町	0	38	38
33	大越町	12	15	27
34	滝根町	0	31	31
35	常葉町	11	28	39
36	浅川町	2	14	16
37	玉川村	2	59	61
38	平田村	7	9	16
39	古殿町	2	28	30
40	石川町	4	26	30
41	白河	89	35	124
42	大信	2	52	54
43	白河市表郷	8	17	25
44	白河市ひがし	4	4	8
45	三神	0	22	22
46	矢吹町	0	40	40
47	中畠	0	42	42
48	泉崎村	0	110	110
49	西郷村	0	170	170
50	中島村	0	15	15
51	棚倉町	0	49	49
52	矢祭町	0	40	40
53	塙町	5	188	193
54	鮫川村	6	47	53
55	会津若松市	10	586	596
56	西会津	0	38	38
57	山都町	14	35	49
58	喜多方市	0	42	42
59	高郷町	0	29	29
60	塙川町	3	14	17

No	奉仕団名	男	女	計
61	熱塩加納町	26	40	66
62	北塙原村	20	37	57
63	会津坂下町	11	52	63
64	柳津町(ひまわり会)	2	51	53
65	湯川村	0	17	17
66	会津美里町本郷	17	29	46
67	会津美里町高田	1	43	44
68	新鶴地区	0	27	27
69	金山町	0	36	36
70	昭和村	0	25	25
71	三島町	0	25	25
72	北会津	4	32	36
73	猪苗代町	20	14	34
74	磐梯町	2	27	29
75	河東町	2	22	24
76	南会津町田島	3	136	139
77	只見町(ともしひ会)	0	157	157
78	下郷町	0	45	45
79	檜枝岐村	0	19	19
80	南会津町南郷	1	0	1
81	南会津町館岩	10	10	20
82	南会津町伊南	13	18	31
83	平方部	4	150	154
84	内郷方部	0	88	88
85	常磐方部	0	30	30
86	小名浜方部	0	154	154
87	勿来方部	0	92	92
88	いわき市四倉方部	0	110	110
89	いわき市遠野方部	0	117	117
90	好間地域	0	35	35
91	原町	0	44	44
92	鹿島	0	53	53
93	小高	2	19	21
94	相馬市	1	21	22
95	新地町	0	100	100
96	飯館村	5	16	21
97	大熊町	休団中		
98	広野町	2	33	35
99	川内村	0	142	142
100	浪江町	4	14	18
101	富岡町	17	32	49
102	双葉町	休団中		
103	檜葉町	休団中		
104	葛尾村	3	18	21
		計①	896	7,026
				7,922

青年奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県立医科大学学生	6	52	58
2	福島青年	29	20	49
3	福島学院大学	1	13	14
4	日本大学工学部	13	4	17
	計②	49	89	138

特殊奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県赤十字安全	54	37	91
2	福島赤十字語学	1	0	1
3	いわき芸能	3	10	13
4	福島赤十字病院	3	11	14
5	日赤福島ボランティア会	23	26	49
6	会津若松市赤十字防災ボランティア	6	28	34
7	福島県あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう	21	7	28
8	県北地区賛助	118	33	151
9	県中地区賛助	153	20	173
10	県南地区賛助	139	16	155
11	会津地区賛助	106	6	112
12	いわき地区賛助	24	6	30
13	相双地区賛助	112	8	120
	計③	763	208	971

特殊奉仕団(アマ無線・防災支援奉仕団)

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島アマ無線	29	2	31
2	会津アマ無線	5	2	7
3	表郷防災支援	9	0	9
4	矢吹アマ無線	6	0	6
5	下郷町アマ無線	17	0	17
6	白沢アマ無線(雷鳥/ムクラブ)	9	1	10
7	安達防災支援	2	0	2
8	郡山アマ無線	9	1	10
9	広野町アマ無線	13	1	14
10	田村市大越アマ無線	2	0	2
11	勿来アマ無線	5	1	6
12	白河アマ無線	12	1	13
13	石川町アマ無線	13	0	13
14	大玉アマ無線	10	2	12
15	いわきアマ無線	4	1	5
16	二本松防災支援	10	0	10
17	小高アマ無線	8	0	8
18	飯館アマ無線	10	0	10
19	河東防災支援無線	17	3	20
20	岩代アマ無線	5	0	5
21	北会津防災支援	14	2	16
	計④	209	17	226
	合計①～④	1,917	7,340	9,257

5

青少年赤十字(JRC)の育成

青少年が赤十字の精神に基づき、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の実践活動を通して、社会に貢献できる人間の育成を目指し、小・中・高等学校等に組織され、学校教育の一環として活動を進めている。(JRC : Junior Red Cross)

① 加盟学校数とメンバー数

(令和7年3月31日現在)

	学校数(校)	メンバー数(名)	県内加盟率(%)
幼稚園	16	421	—
小学校	373	70,554	98.7
中学校	198	35,428	96.1
義務教育学校	9	1,004	100.0
高等学校	32	5,344	33.3
特別支援学校	5	523	19.2
専修学校	1	110	—
計	634	113,384	86.3



(計の県内加盟率は幼稚園と専修学校を除く)

② 青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数

【幼稚園】

地区名	園数	男	女	計	指導者数
福島	11	129	111	240	51
西白河	1	71	64	135	11
相馬	4	31	15	46	21
計	16	231	190	421	83

【小学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
福島	46	5,902	5,677	11,579	912
伊達	17	1,264	1,284	2,548	349
安達	25	1,970	1,796	3,766	376
郡山	51	6,744	6,605	13,349	1,046
岩瀬	21	2,066	1,970	4,036	403
石川	8	759	657	1,416	133
田村	14	1,295	1,258	2,553	212
西白河	26	2,207	2,214	4,421	497
東白川	8	597	608	1,205	107
会津若松・北会津	21	1,926	1,826	3,752	391
耶麻	20	791	755	1,546	253
両沼	13	669	599	1,268	167
南会津	14	313	344	657	132
相馬	23	1,718	1,592	3,310	382
双葉	7	209	233	442	66
いわき	59	7,613	7,093	14,706	818
計	373	36,043	34,511	70,554	6,244



【中学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
福島	23	2,924	2,669	5,593	481
伊達	8	500	476	976	138
安達	11	1,166	1,092	2,258	247
郡山	26	3,134	2,931	6,065	489
岩瀬	11	1,012	989	2,001	188
石川	5	329	340	669	81
田村	9	646	642	1,288	161
西白河	13	1,289	1,217	2,506	298
東白川	4	220	227	447	51
会津若松・北会津	12	1,614	1,481	3,095	184
耶麻	10	486	433	919	155
両沼	8	422	389	811	120
南会津	7	251	215	466	59
相馬	11	957	961	1,918	210
双葉	6	63	70	133	53
いわき	34	3,235	3,048	6,283	398
計	198	18,248	17,180	35,428	3,313

【高等学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
県北	6	53	91	144	73
県南	16	1,943	1,685	3,628	152
会津	4	308	340	648	9
いわき・相双	6	473	451	924	40
計	32	2,777	2,567	5,344	274

【特別支援学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
県北	1	82	43	125	4
県南	3	248	145	393	135
いわき・相双	1	4	1	5	4
計	5	334	189	523	143

【義務教育学校】

地区名	学校数	男	女	計	指導者数
郡山	2	212	191	403	48
岩瀬	1	46	50	96	2
会津若松・北会津	2	155	119	274	47
両沼	1	19	26	45	47
相馬	1	44	37	81	28
双葉	2	54	51	105	59
計	9	530	474	1,004	231



【学校別】

区分	学校数	男	女	計	指導者数	県内の状況（令和6年度）				※1 全国の状況（令和6年度）	
						学校加盟率（%）	児童生徒加入率（%）	※2 全学校数（校）	※2 全児童生徒数（人）	学校加盟率（%）	児童生徒加入率（%）
幼稚園	16	231	190	421	83	△	△	△	△	△	△
小学校	373	36,043	34,511	70,554	6,244	98.7	86.3	378	81,716	37.0	31.4
中学校	198	18,248	17,180	35,428	3,313	96.1	82.3	206	43,064	34.8	29.8
義務教育学校	9	530	474	1,004	231	100.0	56.3	9	1,784	40.8	30.3
高等学校	32	2,777	2,567	5,344	274	33.3	12.8	96	41,636	36.3	11.8
特別支援学校	5	334	189	523	143	19.2	21.4	26	2,441	19.6	16.2
専修学校	1	63	47	110	2	△	△	△	△	△	△
計	634	58,226	55,158	113,384	10,290	86.3	66.1	715	170,641	35.7	26.1

(計の学校加盟率と児童生徒加入率は幼稚園と専修学校を除く)

※1 日本赤十字社青少年赤十字ボランティア課 資料から抜粋

※2 福島県企画調整部統計課編「令和6年度学校基本調査速報」から抜粋

③ 青少年赤十字研究推進校の指定

青少年赤十字活動の振興を目的に、加盟校の中から小・中各1校を研究推進校に指定している。指定校は、3年間にわたり研究推進に取り組み、3年目に指導者研修会と学校公開で研究内容を発表する。

◎令和4～6年度

須賀川市立第三小学校・須賀川市立第三中学校

◎令和6～8年度

只見町立明和小学校・南会津町立南会津中学校



④ 令和6年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員

役職名	氏名	学校名
会長	鷗原 理	福島市立福島第一小学校
副会長	丹伊田伸哉	郡山市立安積第三小学校
副会長	佐藤 和仁	須賀川市立白方小学校
副会長	高野 敦史	福島県立郡山高等学校

役職名	氏名	学校名
監事	土屋 裕史	猪苗代町立猪苗代第二小学校
監事	山田 徹	相馬市立八幡小学校
監事	松原 光	学校法人松韻学園福島高等学校

⑤ 令和6年度各地区指導者協議会長

地区名	氏名	学校名
福島	鷗原 理	福島市立福島第一小学校
伊達	齋藤 貴恵	桑折町立睦合小学校
安達	佐藤 健夫	本宮市立白岩小学校
郡山	丹伊田伸哉	郡山市立安積第三小学校
小中事務局校	高宮 裕	郡山市立明健小学校
岩瀬	佐藤 和仁	須賀川市立白方小学校
石川	川野辺勝也	古殿町立古殿小学校

地区名	氏名	学校名
田村	遠藤 謙一	田村市立美山小学校
西白河	佐藤 康二	白河市立表郷小学校
東白川	安部 孝	矢祭町立矢祭中学校
会津若松・北会津	土屋 裕史	猪苗代町立猪苗代第二小学校
耶麻	猪俣 秀昭	喜多方市立山都小学校
両沼	長澤 敏行	三島町立三島学校
南会津	伊藤 武徳	南会津町立館岩小学校



5 青少年赤十字(JRC)の育成

地区名	氏名	学校名
相馬	山田 徹	相馬市立八幡小学校
双葉	青田 亮一	浪江町立なみえ創成中学校
いわき	白土 勲	いわき市立長倉小学校
県高校	高野 敦史	福島県立郡山高等学校

地区名	氏名	学校名
県北	松原 光	学校法人松園学園福島高等学校
県南	高橋 文彦	福島県立白河旭高等学校
会津	尾形 幸男	福島県立葵高等学校
いわき・相双	山崎 学	学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校

6 会議、研修会

名称	開催日	会場	参加者等
①JRC 担当者会議	4月9日(火)	福島県支部	Web会議
②JRC 県指導者協議会総会・研修会(第1回)	5月9日(木)	福島県支部	各地区会長
③青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会	5月31日(金)～6月2日(日)	国立オリンピック記念青少年総合センター	教員・職員
④県高校指導者協議会総会	5月9日(木)	郡山労働福祉会館	高校JRC担当教諭
⑤県高等学校 JRC 連絡協議会春季総会	5月31日(金)	郡山労働福祉会館	高校生メンバー・教諭
⑥全国青少年赤十字指導者協議会総会	7月12日(金)	本社 他	指導者協議会副会長
⑦県高校リーダーシップ・トレーニングセンター	7月5日(金)～7日(日)	磐梯青少年交流の家	高校生メンバー・教諭
⑧県青少年赤十字福島県指導者講習会	8月6日(火)～7日(水)	郡山市青少年会館	教員
⑨第1ブロック支部青少年赤十字高校生メンバー交流事業	9月28日(土)～9月29日(日)	震災遺構請戸小学校 他	高校生メンバー・教諭
⑩第1ブロック青少年赤十字指導者研修会	11月21日(木)～22日(金)	日赤北海道支部	指導者協議会会長・職員
⑪JRC 県指導者協議会総会・研修会(第2回)	11月7日(木)	福島県支部	各地区会長
⑫県高等学校 JRC 連絡協議会秋季総会・県大会	11月1日(金)～2日(土)	郡山労働福祉会館	高校生メンバー・教諭
⑬青少年赤十字研究会(指導主事対象)	令和7年1月10日(金)	本社	指導主事等
⑭JRC 県指導者協議会役員会	2月6日(木)	福島県支部	指導者協議会役員等
⑮福島・栃木 高校生メンバー交流会	2月22日(土)	藤岡遊水地会館	高校生メンバー・教諭
⑯JRC スタディー・センター	3月22日(土)～26日(水)	山中湖村東照館	高校生メンバー・教諭

7 県内リーダーシップ・トレーニング・センターの開催

リーダーシップ・トレーニング・センターは、青少年赤十字の教育プログラムのひとつであり、集団生活を伴う学習活動の場で赤十字と青少年赤十字について理解を深めるとともに、リーダーとして活躍できる児童・生徒の育成を目指している。

【小中】

福島・伊達・安達(7月、福島市吾妻学習センター) 郡山(7月、郡山市公会堂)

西白河・東白川(7月、表郷小) 北会津・会津若松(7月、磐梯青少年交流の家)

耶麻(8月、会津自然の家) 両沼(8月、会津自然の家)

【高校】

県高校(7月、郡山労働福祉会館) 県北(8月、日赤県支部)

県南(7月、サンフレッシュ白河) いわき・相双(8月、いわき市生涯学習センター)



8 指導者研修会・講習会等の開催

地 区	開 催 日	内 容	会 場	参 加 人 数	主 な 内 容 等
福 島	4月25日(木)	総会・研修会	福島一小	63名	総会文書審議・研修会
伊 達	4月26日(金)	総会・研修会	睦合小学校	18名	総会文書審議・研修会
安 達	4月12日(金)	総会	安達公民館	36名	総会文書審議
福 島 伊 達 安 達	7月31日(水)	指導者講習会	福島市吾妻学習センター	84名	
郡 山	4月9日(火)	総会	安積総合学習センター	90名	総会文書審議
岩 瀬	5月15日(水)	総会・研修会	大東公民館	38名	総会文書審議・研修会
石 川	6月3日(月)	総会・研修会	石川小	17名	総会文書審議・研修会
田 村	5月1日(水)	総会	船引公民館	23名	総会文書審議
//	6月11日(火)	指導者講習会	船引公民館	23名	研修会
西 白 河	4月4日(木)	総会・研修会	表郷小	40名	総会文書審議・研修会
//	7月26日(金)	指導者研修会	表郷小	26名	研修会
東 白 川	4月23日(火)	総会・研修会	書面開催	6名	総会文書審議
//	7月26日(金)	指導者研修会	表郷小	26名	研修会
北 会 津 津	5月8日(水)	総会・研修会	河東学園	36名	総会文書審議・研修会
//	7月30日(火)	指導者講習会	磐梯青少年交流の家	32名	研修会
耶 麻	4月4日(木)	総会	喜多方一小	30名	総会文書審議
//	8月1日(木)	指導者講習会	会津自然の家	26名	救命救急講習 他
両 沼	4月4日(木)	総会	高田小	22名	総会文書審議
//	8月2日(金)	指導者講習会	会津自然の家	70名	研修会
南 会 津	4月3日(水)	総会	御蔵入交流館	20名	総会文書審議
相 馬	4月23日(火)	総会・研修会	相馬市民会館	45名	総会文書審議・研修会
い わ き	5月22日(水)	総会	書面開催	20名	総会文書審議
//	11月5日(火)	指導者講習会	長倉小	40名	青少年赤十字の理念等
県 高 等 学 校	5月31日(金)	総会・研修会	郡山市労働福祉会館	17名	総会文書審議・研修会
県 高 北 校	5月13日(月)	総会・研修会	福島県支部	8名	総会文書審議・研修会
//	6月15日(土)	講習会	福島県支部	5名	研修会
県 高 南 校	6月21日(金)	総会・研修会	白河旭高校	8名	総会文書審議・研修会
いわき相双高 校	4月26日(金)	総会・研修会	磐城第一高校	8名	総会文書審議・研修会



9 福島県青少年赤十字賛助奉仕団

「賛助奉仕団」とは、小・中・高等学校で青少年赤十字活動の指導にあたっていた元教員が、青少年赤十字の普及発展に寄与することを目的に活動しているボランティア組織である。

ア 団員数 6地区 合計 743名 (令和6年8月1日)

県 北 151名	県 中 181名	県 南 147名
会 津 112名	いわき 32名	相 双 120名

イ 会議等

会 議 名	場 所	参 加 者	開 催 日
①県賛助奉仕団総会	日赤県支部	各地区代議員	5月9日
②全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	日赤本社	全国役員、県委員長	7月10日～12日
③青少年赤十字100文字作品審査協力	日赤県支部	団員	9月～12月
④NHK 海外たすけあい街頭募金	県内主要市	団員	12月
⑤全国賛助奉仕団協議会役員会	日赤本社	全国役員、県委員長等	3月11日、12日

10 青少年赤十字防災教育プログラムの普及

地域奉仕団・賛助奉仕団と連携し、青少年赤十字加盟校や各地区関係機関への周知・啓発を図り、県内各地で防災教室を実施している。



防災教室実施状況（児童・生徒向け防災教育プログラム）

開 催 日	対 象	内 容	参 加 人 数
1 4月10日(水)	郡山市立逢瀬中学校	・防災講話（同調性バイアス）	児童生徒72・教員等10
※ 2 5月21日(火)	田村市立滝根中学校	・避難所運営ゲーム（HUG）	児童生徒74
	3 6月11日(火)	・きけんはっけん ・ドローイングチャレンジ ・いえままでごろく	児童生徒77・教員等8
※ 4 6月20日(木)	伊達市立伊達東小学校	・災害図上訓練（DIG） ・防災かるた ・防災グッズ作り	児童生徒112
	5 6月27日(木)	・竹ひごタワー ・いえままでごろく ・きけんはっけん	児童生徒370・教員等20
6 6月29日(土)	相馬市立八幡小学校	・災害時シミュレーション ・応急手当 ・防災グッズづくり	児童生徒99・教員等62
※ 7 7月5日(金)	福島県立だて支援学校	災害への備え、KAG	児童生徒等10



開催日		対象	内容	参加人数
8	7月6日(土)	須賀川市立第一中学校	・災害時シミュレーション ・応急手当 ・防災グッズづくり	児童生徒73・教員等66
※ 9	7月10日(水)	いわき市立小名浜第二中学校	・避難所運営ゲーム (HUG)	児童生徒94・教員等30
10	7月11日(木)	会津若松市立湊学園	・竹ひごタワー	児童生徒7・教員等7
※ 11	7月12日(金)	天栄村立牧本小学校	災害への備え、KAG	児童生徒等60
※ 12	7月26日(金)	白河地区指導者協議会 (トレセン)	・ドローイングチャレンジ ・いえままでごろく ・避難所運営ゲーム (HUG)	児童生徒5・教員等21
13	7月31日(水)	郡山地区指導者協議会 (トレセン)	・竹ひごタワー ・いえままでごろく	児童生徒38・教員等15
14	8月1日(木)	福島市飯坂学習センター	・災害時シミュレーション ・ドローイングチャレンジ ・竹ひごタワー ・非常食体験	児童生徒12・教員等2
※ 15	8月21日(水)	福島県高等学校家庭クラブ連盟	避難所運営ゲーム (HUG)	児童生徒等70
16	8月30日(金)	相馬市立山上小学校	・ドローイングチャレンジ ・新聞紙スリッパづくり	児童生徒9・教員等1
17	9月3日(火)	いわき市立小名浜第一小学校	・いえままでごろく ・新聞紙スリッパづくり	児童生徒53・教員等6
18	9月4日(水)	福島市立福島第一小学校	・いえままでごろく	児童生徒90・教員等15
19	9月5日(木)	玉川村立須釜小学校	・ドローイングチャレンジ	児童生徒9・教員等1
※ 20	9月6日(金)	二本松市立新殿小学校	災害時シミュレーション、災害時に身近な物で役立つ技術	児童生徒等50
21	9月7日(土)	いわき市立四倉公民館	・竹ひごタワー ・きけんはっけん	児童生徒28・教員等7
22	9月11日(水)	二本松市立塙沢小学校	・竹ひごタワー ・風水害の授業	児童生徒76・教員等12
※ 23	9月20日(金)	棚倉町立棚倉中学校	・非常食体験 ・救護活動講話 ・救援物資展示	児童生徒128・教員等8
※ 24	9月26日(木) ～27日(金)	いわき市立江名中学校	・竹ひごタワー ・自分だったらどうする ・非常食体験 ・救急法 ・避難所運営ゲーム (HUG)	児童生徒54・教員等4
25	10月4日(金)	福島市立平野中学校	・防災講話 ・新聞紙スリッパづくり	児童生徒235・教員等27
26	10月11日(金)	二本松市立二本松北小学校	・きけんはっけん ・風水害の授業	児童生徒117・教員等6
27	10月29日(火)	須賀川市立仁井田小学校	・竹ひごタワー ・非常食体験	児童生徒45・教員等3
28	10月31日(木)	会津若松市立第六中学校	・災害時シミュレーション ・竹ひごタワー	児童生徒80・教員等12
29	10月31日(木)	福島成蹊高校	・竹ひごタワー ・ドローイングチャレンジ ・救急法 ・非常食体験	児童生徒195・教員等12
※ 30	11月8日(金)	柳津町立柳津学園中学校	・避難所運営ゲーム (HUG)	児童生徒67・教員等10
※ 31	11月13日(水)	福島県立相馬総合高校	災害図上訓練 (DIG)	児童生徒等550
32	11月16日(土)	相馬市教育委員会 相馬ジュニア防災マスター	・非常食体験 ・いえままでごろく ・応急手当	児童生徒30・教員等30



5 青少年赤十字(JRC)の育成

開催日	対象	内容	参加人数
33 12月17日(火)	二本松市立油井小学校	・自分だったらどうする	児童生徒76・教員等3
34 令和7年1月21日(火)	県立須賀川創英館高校	・竹ひごタワー ・防災講話	児童生徒27・教員等2
35 1月25日(土)	いわき市立久之浜・大久公民館	・ドローイングチャレンジ ・防災かるた ・きけんはっけん	児童生徒10・教員等4
※ 36 2月7日(金)	二本松市立二本松第二中学校	・竹ひごタワー ・いえままでごろく ・避難所運営ゲーム (HUG)	児童生徒110・教員等10
※ 37 2月21日(金)	郡山ザベリオ学園小学校	災害時に身近な物で役立つ技術	児童生徒等43
38 3月11日(火)	棚倉町立近津小学校	・竹ひごタワー ・きけんはっけん ・いえままでごろく	児童生徒104・教員等6
参 加 人 数 計			3,899

※防災セミナーのメニューも含む

11 青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集

青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象にテーマを設け、「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を詩や100文字に表現した作品の募集を行っている。

ア 募集期間 令和6年4月1日～令和6年9月6日

イ 募集テーマ
詩「いのちの詩・愛の詩」
100文字提案

「わたしがだれかのためにできること」
「世界の見知らぬ友へ」(小・中学生のみ)
「世界の問題についての私の提案」(高校生のみ)
「夢をかなえるために」

ウ 応募校数・応募点数 43校 2,933点

エ 作品審査会(最終)
令和6年11月6日(水)

場所：日本赤十字社福島県支部

オ 入賞作品
支部長賞 4点
県指導者協議会長賞 1点
県賛助奉仕団委員長賞 1点
学校賞 4校
学校奨励賞 3校
優秀賞 14点
佳作 73点
入選 192点

カ 最優秀作品表彰式 令和6年12月24日(火) 日赤福島県支部



⑫ 青少年赤十字国際交流事業 海外支援事業

青少年赤十字メンバー及び賛助奉仕団から「青少年赤十字一円玉募金」の寄託があった。

前年度継越額	本年度寄託額	本年度使用額	本年度日赤本社送金額	本年度末残高
0円	32,856円	0円	32,856円	0円

⑬ 県支部主催 第1ブロック支部青少年赤十字高校生メンバー交流会の開催

9月28日(土)～29日(日)、北海道・東北地区の高校生が来県し交流を図った。1日目は、震災遺構請戸小学校や東日本大震災・原子力災害伝承館で研修を行い、その後、会場をいこいの村なみえに移し、高校生として地域の防災・減災活動にどう取り組んでいくか意見交換を行った。2日目もいこいの村なみえにおいて各県の防災・減災についての取り組みの情報交換や自分の地域で、どのように防災活動を進めていくか議論を深めた。



⑭ 青少年赤十字活動への関心を広げるための啓発

次の広報誌等を加盟校に配付し、今後の青少年赤十字活動の推進・充実につながるよう啓発した。

- ・「うつくしま JRC フォトニュース」 年3回発行（6月・10月・2月）
- ・「JRC ふくしま」 年2回発行（10月・2月）

6 社会福祉活動

① 高齢者福祉対策事業

高齢者作品展示会支部長顕彰

42地区・分区で開催

② 保健衛生事業

○赤十字健康講演会

開催日	会場	講師	演題	参加人数
5月29日(水)	猪苗代町 猪苗代町体験交流館 学びいな	福島赤十字病院 脳神経内科部 医師	脳卒中から大切な生活を守る	31
9月6日(金)	白河市 白河市役所	福島赤十字病院 健診課 医師	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	18
9月18日(水)	南相馬市 原町区福祉会館	福島赤十字病院 脳神経内科部 医師	脳卒中の予防と治療	53
9月25日(水)	伊達市 保原町中央交流館	福島赤十字病院 摂食・嚥下障害看護認定看護 師	食べ続けるための口腔ケア	37
10月7日(月)	福島市 福島市飯野学習センター	福島赤十字病院 脳神経内科部 医師	脳卒中の予防と治療	28
11月14日(木)	二本松市 二本松福祉センター	福島県赤十字病院 健診課 医師	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	44
11月20日(水)	中島村 中島村生涯学習センター輝ら里	福島赤十字病院 脳神経内科部 医師	脳卒中の予防と治療	36
令和7年 2月17日(月)	いわき市 いわき市立大浦公民館	福島赤十字病院 栄養課 管理栄養士	高齢者の食事について (塩分の少ない・バランスのとれた食事等)	28

③ 地域高齢者生活支援活動

○にこにこ健康教室

開催日	赤十字奉仕団名	会場	参加人数
10月16日(水)	鏡石町赤十字奉仕団	笠石防災センター	15

④ 福祉団体との連携

○福島県身体障がい者グラウンド・ゴルフ大会へのボランティア派遣

開催日	会場	赤十字奉仕団名	派遣人数
9月20日(金)	福島市十六沼公園	県北地区青少年赤十字賛助奉仕団	4

⑤ 会議・研修会

名 称	開 催 日	場 所	参 加 人 数
①地域包括ケアシステム市町村担当者会議	5月14日(火)	Web	支部 1
②地域包括ケア担当者会議	5月28日(火)	Web	支部 1

7

国際活動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟および各國赤十字・赤新月社と連携しつつ、様々な国際活動を行っている。

① 第1ブロック支部による国際活動への参加

第1ブロック（北海道・東北6県）の各支部では、資金を拠出し、国際活動に参加しており、下記の救急法普及支援事業や青少年赤十字海外支援事業を推進している。

第1ブロック国際活動参加費		総額	福島県支部の拠出額
救急法普及支援事業	ラオス	1,500,000円	226,000円
青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	1,500,000円	227,000円
気候変動等レジリエンス強化事業	ルワンダ	1,500,000円	227,000円
気候変動対策事業	アフガニスタン	1,500,000円	227,000円
合計		6,000,000円	907,000円

② 救援金受付状況（福島県支部取扱分）

救援金名	件数	金額
①無指定海外救援金	2	51,703円
②中東人道危機救援金（平成27年度から累計）	0 (28)	0円 (343,540円)
③バングラデシュ南部避難民救援金	0	0円
④アフガニスタン人道危機救援金	0	0円
⑤ウクライナ人道危機救援金	11	407,101円
⑥イスラエル・ガザ人道危機救援金	6	4,300円
⑦2024年台湾東部沖地震救援金	48	4,176,666円
⑧レバノン人道危機救援金	4	55,968円



③ NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）

【福島県支部実績】

全　　体	952件	10,769,608円
(内訳) 支部受付	393件	2,941,729円
本社扱郵便為替	559件	7,827,879円

街頭募金 8市11会場 320,377円

(福島市、郡山市、白河市2会場、会津若松市2会場、南相馬市、相馬市、いわき市、喜多方市2会場)



海外たすけあい街頭募金

④ 安否調査

日本赤十字社は、赤十字国際委員会を中心に、世界191カ国に組織されている各国赤十字・赤新月社との連携によって紛争や災害により行方不明になった家族の消息および安否の調査を行っている。

◎令和6年度 依頼なし

8 広報

社旨普及の広報活動は、赤十字の重要な業務であり、あらゆる機会に「人道・博愛」の精神の普及啓発に努めている。

また、この活動は、赤十字関係者に対する社業推進の状況報告を意味するとともに、広く県民に対する協力支持を要請する啓発活動であり、5月8日の世界赤十字デー、5月の赤十字運動月間を中心に展開している。

本年度の社旨普及、広報活動及び主な刊行物は次のとおり。

① 日赤本社刊行物の配布

赤十字 NEWS (毎月1日発行)	25,000部
会員誌「Cross com-BOOK」(年2回発行)	6,200部
青少年赤十字指導情報	1,700部
青少年赤十字機関誌(小)	1,400部
青少年赤十字機関誌(中・高)	1,200部
赤十字この1年(DVD)	

② 支部発行物の作成配布

ア 社員増強用資料

赤十字社員加入と募集の手引き	25,000部
赤十字のしおり(Q&A)	4,000部
赤十字社員増強運動用チラシ	680,000部
日赤福島県支部広報紙「日赤ふくしま」第49号	371,000部

イ JRC用資料

青少年赤十字活動4つの勧め	3,000枚
うつくしまJRCフォトニュース第66号・67号・68号	各2,100枚
JRCふくしま(青少年赤十字福島県指導者協議会発行)第72号	1,800部
// 第73号	1,800部
わたしの青少年赤十字 詩・100文字提案作品集	3,000部

③ ホームページ等の開設

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima>
 (平成14年3月20日開設、令和3年4月1日リニューアル・
 URL変更)



インスタグラム <https://www.instagram.com/nissekifukushima>
 (平成29年12月1日開設)



フェイスブック <https://www.facebook.com/>
 日本赤十字社福島県支部 -1896501787332037/
 (平成29年12月1日開設)



④ 新聞・テレビ・ラジオ広報

- ア 新聞広告（福島民報社・福島民友新聞社）防災月間（9月）
- イ 本社製作テレビ CM（FTV・FCT・KFB・TUF）赤十字運動月間（5月）
 テレビ局におけるパブリシティの実施（KFB）
- ウ ラジオ広告（ラジオ福島）
 ラジオ福島「命を守るキャンペーン」協賛
 ラジオスポット 20秒×50回（年間）



令和6年度赤十字社員増強運動用チラシ



支部広報紙「日赤ふくしま」第49号

9

医療事業

日本赤十字社では、全国に90の赤十字病院を有しており、各地域の中核医療機関として地域医療に貢献し、救急医療、がん診療、生活習慣病の予防や介護の支援、災害時における国内外への医療チーム派遣など、さまざまな活動を通じて社会に貢献している。

福島赤十字病院は、福島市を中心とする県北医療圏において、救急医療・地域医療・災害医療の中心的役割を担っており、第二次救急指定病院、災害拠点病院（地域災害医療センター）、原子力災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関、地域医療支援病院に指定されている。

① 医療施設

福島赤十字病院（福島県福島市八島町7番7号）



② 診療科（26科）

内科、リウマチ・膠原病内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経内科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科

③ 病床数と職員数

許可病床数 296床 [一般 268床 HCU 12床 感染症 6床 精神 10床]

職員数 597名 [医師 74名（研修医 17名含む） 看護師 304名

医療技術員 101名 その他 118名]

④ 患者数

	外 来			入 院		
	令和6年度(人)	令和5年度(人)	前年度比増減(%)	令和6年度(人)	令和5年度(人)	前年度比増減(%)
総 患 者 数	119,521	120,651	-0.9	88,743	82,782	7.2
新 患 者 数	8,157	7,628	6.9	7,131	6,797	4.9
1 日 平 均	493.9	498.6	0.06	243.1	226.2	7.4
平均在院日数(一般)				11.5日	11.2日	0.3日
病 床 稼 働 率				86.2%	80.2%	6



5 紹介患者数

	令和6年度	令和5年度	前年度比増減
紹介患者数(人)	7,304	6,611	693
紹介率(%)	123.2%	117.8%	5.4

6 救急車両による搬入患者数

	令和6年度	令和5年度	前年度比増減
患者数(人)	4,184	4,138	46
内入院患者数(人)	2,244	2,124	120

7 医療機器の整備（令和6年度分 主なもの）

品名	規格・型式	台数	設置場所
卓上遠心機	S500T	1	臨床検査部
汎用分光光度分析装置	ES アナライザー	1	臨床検査部
赤血球沈降速度測定装置	Quick eye 8	1	臨床検査部
膀胱用超音波画像診断装置	Biocon-900s	1	泌尿器科
ハンドヘルドオートラクタケラトメータ	レチノマックスK	1	眼科
電動油圧手術台	MOT-VS600Dj	1	手術室
卓上遠心機	S500T +スイングロータ ST-724M	1	病理検査室
超音波プローブ	3Sc-RS	1	手術室
テルフュージョン輸液ポンプ28型	TE-281A アンチフロー機能有	15	臨床工学技術課
薬用冷蔵ショーケース	MPR-S150H-PJ	1	5A病棟
特殊浴槽装置	スカイコート SB5000A	1	介助浴室
全身麻酔装置	Atlan350	1	手術室
内視鏡検査台	EX-CS6N	1	内視鏡室
バイポーラ凝固止血器	GN160	1	手術室
人工呼吸器	Elisa300	5	臨床工学技術課
補助循環用バルーンパンピング駆動装置	コラート BP3 HBP3	1	IVRセンター
テルフュージョン輸液ポンプ28型	TE-281A アンチフロー機能有	1	臨床工学技術課
テルフュージョン輸液ポンプ28型	TE-281A アンチフロー機能有	1	臨床工学技術課
婦人科検診台	メグジョイ EX1146675	1	産婦人科
テルフュージョン輸液ポンプ28型	TE-281A アンチフロー機能有	5	臨床工学技術課
エネルギー プラットフォーム	バリーラブ FT10	1	手術室
電動ベッドメーティス PRO	KA-75121A	6	感染症病室
薬用冷蔵ショーケース	MPR-S500RH-PJ	1	薬剤部
高周波手術装置	VI03 5ソケットモデル E125000	1	手術室
電動リモートコントロールベッド	KA-H7410A	4	HCU
ICカード式麻薬保管庫	SB-609RFEK	1	手術室
外科用X線テレビジョン装置	OPESCOPE ACTENO FD type	1	放射線科
ベッドサイドモニタ	DSC-8430	4	HCU

8 訪問看護ステーションの運営

訪問延べ回数 4,419回

9 相談・健診

ア 相 談

- 医療相談 10,644回

イ 健診等

- | | | | |
|-----------------------|--------|----------------------|------|
| 各種ドック | 552名 | 市町村民健診 | 420名 |
| 協会けんぽ生活習慣病予防健診 | 1,033名 | 保健指導 | 479件 |
| 避難区域等以内（福島県県民健康管理調査） | 7名 | 避難区域等以外（福島県県民健康管理調査） | 24名 |
| 甲状腺超音波検査（福島県県民健康管理調査） | 48名 | 福島市10ヵ月検診 | 38名 |
| 福島市4ヵ月検診 | 20名 | | |
| その他の健診 | 2,425名 | | |

10 血液事業

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいう。

① 献血状況

令和6年度の全血献血量は、200mL 換算で対前年度比100.5%の103,566単位であった。

成分献血は対前年度比103.7%、200mL 献血については、108.3%、400mL 献血は、100.4%であった。

400mL 献血比率は、対前年度比0.3ポイント減の96.1%となっている。

単位：バッグ

献血方法	令和6年度			令和5年度			令和4年度	
	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)
成分献血	21,398	28.8%	103.7	20,639	28.2%	88.0	23,447	30.9%
血小板献血	8,938	12.0%	95.7	9,340	12.8%	99.2	9,412	12.4%
血漿献血	12,460	16.8%	110.3	11,299	15.5%	80.5	14,035	18.5%
全血献血	52,814	71.2%	100.7	52,465	71.8%	100.2	52,376	69.1%
400mL 献血(ア)	50,752	68.4%	100.4	50,561	69.2%	99.6	50,741	66.9%
200mL 献血(イ)	2,062	2.8%	108.3	1,904	2.6%	116.5	1,635	2.2%
合計	74,212	100.0%	101.5	73,104	100.0%	96.4	75,823	100.0%
全血の単位換算数 【(ア×2)+(イ×1)】	103,566		100.5	103,026		99.9	103,117	
400mL献血比率 【ア/(ア+イ)】	96.1%			96.4%			96.9%	

※令和6年度の400mL 献血比率の状況は、医療需要と同程度の約96.1%で推移している。

② 供給状況

令和6年度は、241,310単位（200mL 換算）の血液製剤を供給した。

対前年度比については、血小板製剤が109.6%、血漿製剤が110.9%、赤血球製剤が102.3%、総供給単位の合計で106.5%と、医療機関の需要動向に則し令和5年度と比して増加した。

単位：200mL 単位換算

製剤別	令和6年度			令和5年度			令和4年度	
	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)
血小板製剤	109,770	45.5%	109.6	100,160	44.2%	91.9	109,035	46.6%
血漿製剤	27,661	11.5%	110.9	24,949	11.0%	105.1	23,743	10.2%
赤血球製剤	103,879	43.0%	102.3	101,572	44.8%	100.5	101,083	43.2%
合計	241,310	100.0%	106.5	226,681	100.0%	96.9	233,861	100.0%

※血漿製剤の単位換算は、FFP-LR120を1単位、FFP-LR240を2単位、FFP-LR480を4単位にて算出。



③ 推進会議等の開催

会議名	期日	場所
①令和6年度保健福祉事務所等業務担当課長等会議	4月26日(金)	福島県庁
②令和6年度福島県献血推進協力会総会	7月25日(木)	福島県薬剤師会館
③令和6年度福島県献血推進協議会	未開催	

④ 献血思想の普及啓発・行事

献血思想の普及と献血意識の高揚を図り、献血運動を推進するため、広報活動を実施した。

ア 「愛の血液助け合い運動」の実施

主 催：福島県、各市町村、日本赤十字社福島県支部

期 間：令和6年7月1日～31日

実施内容：ポスター等の広報資材を各保健福祉事務所、
市町村に配布、県内各方部において、赤十字
奉仕団、青少年赤十字メンバー等と共に献血
を呼びかけた。

街頭献血キャンペーン：県内13市で実施



イ 「献血感謝デー」等の開催

令和6年度は、福島センター、いわき出張所および郡山駅前出張所において新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催。

場所	期間	献血者数
福島県赤十字血液センター	令和7年3月8日(土)、9日(日)の2日間	計137名
イオン福島店	令和7年3月8日(土)、9日(日)の2日間	計90名
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和7年3月15日(土)、18日(火)、20日(木・祝)、22日(土)の4日間	計205名
福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所	令和7年2月10日(月)～16日(日)の7日間	計493名

※いわき出張所の開所日は毎週 火・木・土曜日

ウ 夏休み血液センター親子見学会

令和6年度は、福島県赤十字血液センター、いわき出張所にて新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催。

場所	期間	参加者
福島県赤十字血液センター	令和6年7月26日(金)、27日(土)の2日間	計84名
福島県赤十字血液センター 会津出張所	未開催	
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和6年8月13日(火)、15日(木)の2日間	計10名



エ キャンペーン

①「全国学生クリスマス献血キャンペーン2024」

主 催：全国学生献血推進実行委員会

期 日：令和6年12月1日～12月31日

月 日	場 所	献血者数
12月8日(日)	イオンタウン郡山	54名
12月8日(日)	イオンいわき店 (バス2台)	133名
12月19日(木)	会津短期大学	34名
12月20日(金)	猪苗代町役場 (バス2台)	119名
12月21日(土)	JR 福島駅東口広場	48名
12月18日(水) ～25日(水)	福島・郡山駅前・いわき各献血ルーム (10代・20代献血者対象)	88名



②令和6年「はたちの献血」キャンペーン

主 催：厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

期 日：令和7年1月1日～2月28日

月 日	場 所	献血者数
2月2日(日)	イオンいわき店	90名
2月16日(日)	イオン福島店	67名
2月22日(土)	ヨークベニマル野田店	57名



⑤ 骨髓ドナーの登録者受入及び登録状況

骨髓移植推進財団が推進する骨髓バンク事業のうち、日本赤十字社は造血肝細胞提供支援機関の指定を受け、骨髓提供希望者の登録管理業務を行っている。

骨髓バンク集団登録説明会及び献血併行型ドナー登録会は、県骨髓バンク推進協議会と各保健所が中心となり、今年度県内で84回実施され、516人が登録者した。

福島県の総登録者数 13,932人

⑥ 日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰

ア 献血団体功労

- ①社長感謝状 13団体
- ②金色有功章 13団体
- ③銀色有功章 20団体
- ④支部長感謝状（金枠） 21団体
- ⑤支部長感謝状（銀枠） 10団体

イ 献血推進団体功労

- ①社長感謝状 0団体
- ②金色有功章 0団体
- ③銀色有功章 0団体
- ④支部長感謝状（金枠） 1団体
- ⑤支部長感謝状（銀枠） 2団体

11 評議員会

- (1) 令和6年6月 令和6年度第1回評議員会
 - 議案第1号 令和5年度日本赤十字社福島県支部事業報告及び収支決算について
 - 議案第2号 令和5年度福島赤十字病院事業報告及び収支決算について
 - 議案第3号 令和5年度福島県赤十字血液センター事業報告について

- (2) 令和7年2月 令和6年度第2回評議員会
 - 議案第1号 令和7年度日本赤十字社福島県支部事業計画及び収支予算について
 - 議案第2号 令和7年度福島赤十字病院事業計画及び収支予算について
 - 議案第3号 令和7年度福島県赤十字血液センター事業計画について
 - 議案第4号 日本赤十字社代議員の選出について

12 業務監理執行及び会計の監査

令和6年6月4日、5日、監査委員により、次のとおり令和5年度業務監理執行並びに会計について書面による監査が実施された。

- 令和5年度日本赤十字社福島県支部の業務監理執行及び会計の監査
- 令和5年度福島赤十字病院の業務監理執行及び会計の監査
- 令和5年度福島県赤十字血液センターの業務監理執行の監査

13 赤十字社員増強運動

① 赤十字社員増強運動の推進と成果

ア 赤十字社員数

日本赤十字社は、社員をもって組織されており、毎年5月を中心に社員増強運動を展開している。当支部の社員数は下表のとおりである。

社 員 数	
社員（個人）	3,435名
社員（法人）	993法人
合 計	4,428名・法人

※社員…赤十字の理念と活動に賛同いただき、社費として年2,000円以上ご協力の方

イ 社資募集実績額

赤十字の事業は、社員が納入する社費（会費）と寄付金を財源として実施している。令和6年度の社資（社費及び寄付金）実績額は下表のとおりである。

	社資目標額	社資実績額	達成率
一般社資	252,873,000円	239,215,386円	94.6%
法人社資	12,000,000円	22,038,442円	183.7%
合 計	264,873,000円	261,253,828円	98.6%

ウ 令和6年度社資実績額表

	地 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
市 地 区	福島市地区	35,185,000	31,791,188	2,461,309	34,252,497	97.3	34,321,251
	伊達市地区	9,834,000	9,421,350	0	9,421,350	95.8	9,644,200
	二本松市地区	8,362,000	7,677,062	100,000	7,777,062	93.0	7,771,922
	本宮市地区	3,426,000	3,426,700	0	3,426,700	100.0	3,435,465
	郡山市地区	38,328,000	35,522,106	600,000	36,122,106	94.2	37,640,609
	田村市地区	5,429,000	5,269,373	0	5,269,373	97.1	5,344,173
	須賀川市地区	7,922,000	7,223,190	0	7,223,190	91.2	7,618,500
	白河市地区	7,307,000	7,536,600	8,014	7,544,614	103.3	8,111,127
	会津若松市地区	14,980,000	12,477,938	583,000	13,060,938	87.2	15,576,978
	喜多方市地区	6,990,000	6,003,383	0	6,003,383	85.9	6,547,625
県 北	南相馬市地区	6,576,000	6,012,486	0	6,012,486	91.4	6,463,500
	相馬市地区	4,137,000	3,633,629	0	3,633,629	87.8	3,794,500
	いわき市地区	40,055,000	37,477,128	500	37,477,628	93.6	38,132,578
	市 地 区 合 計	188,531,000	173,472,133	3,752,823	177,224,956	94.0	184,402,428
	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	川俣町分区	2,371,000	2,249,400	0	2,249,400	94.9	2,385,600
	桑折町分区	1,788,000	1,715,300	0	1,715,300	95.9	1,724,800
	国見町分区	1,723,000	1,782,128	0	1,782,128	103.4	1,789,504
	大玉村分区	985,000	1,080,000	0	1,080,000	109.6	1,086,000
	県 北 地 区 計	6,867,000	6,826,828	0	6,826,828	99.4	6,985,904

(単位：円)

	分区名	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
県中	三春町分区	2,191,000	2,172,500	0	2,172,500	99.2	2,181,500
	小野町分区	1,580,000	1,390,000	0	1,390,000	88.0	1,505,000
	鏡石町分区	1,597,000	1,607,550	0	1,607,550	100.7	1,613,050
	天栄村分区	831,000	831,600	0	831,600	100.1	822,600
	石川町分区	1,905,000	1,850,867	0	1,850,867	97.2	1,878,171
	玉川村分区	887,000	844,500	0	844,500	95.2	856,500
	平田村分区	828,000	791,500	0	791,500	95.6	800,000
	浅川町分区	849,000	827,500	0	827,500	97.5	832,500
	古殿町分区	804,000	751,000	0	751,000	93.4	750,500
	県中地区計	11,472,000	11,067,017	0	11,067,017	96.5	11,239,821
	分区名	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
県南	西郷村分区	2,313,000	2,467,500	7,000	2,474,500	107.0	2,471,500
	泉崎村分区	798,000	818,000	0	818,000	102.5	844,000
	中島村分区	570,000	543,500	0	543,500	95.4	555,000
	矢吹町分区	2,083,000	2,047,300	0	2,047,300	98.3	2,042,800
	棚倉町分区	2,009,000	1,742,000	0	1,742,000	86.7	1,701,000
	矢祭町分区	825,000	811,000	0	811,000	98.3	809,500
	塙町分区	1,498,000	1,531,180	0	1,531,180	102.2	1,419,846
	鮫川村分区	593,000	532,000	0	532,000	89.7	519,000
	県南地区計	10,689,000	10,492,480	7000	10,499,480	98.2	10,362,646
	分区名	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
会津	磐梯町分区	529,000	517,500	0	517,500	97.8	527,500
	猪苗代町分区	2,529,000	2,645,793	0	2,645,793	104.6	2,355,350
	北塩原村分区	527,000	372,800	0	372,800	70.7	363,200
	西会津町分区	1,209,000	1,122,015	0	1,122,015	92.8	1,143,500
	会津坂下町分区	1,703,000	1,395,517	0	1,395,517	81.9	1,515,420
	湯川村分区	438,000	432,500	0	432,500	98.7	436,000
	柳津町分区	565,000	498,500	0	498,500	88.2	458,500
	会津美里町分区	3,020,000	2,843,860	0	2,843,860	94.2	2,857,560
	三島町分区	385,000	297,058	0	297,058	77.2	1,316,500
	金山町分区	516,000	427,000	0	427,000	82.8	434,000
	昭和村分区	401,000	385,100	0	385,100	96.0	412,747
	会津地区計	11,822,000	10,937,643	0	10,937,643	92.5	11,820,277
	分区名	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
南会津	南会津町分区	2,603,000	2,372,500	0	2,372,500	91.1	2,431,000
	下郷町分区	1,088,000	1,064,971	9,000	1,073,971	98.7	1,075,891
	檜枝岐村分区	99,000	92,000	0	92,000	92.9	94,500
	只見町分区	708,000	636,000	0	636,000	89.8	658,500
	南会津地区計	4,498,000	4,165,471	9,000	4,174,471	92.8	4,259,891
	分区名	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
相双	新地町分区	1,189,000	1,188,500	0	1,188,500	100.0	1,150,500
	飯館村分区	310,000	173,200	0	173,200	55.9	221,600
	双葉町分区	100,000	356,000	0	356,000	356.0	28,500
	檜葉町分区	733,000	1,806,000	0	1,806,000	246.4	2,158,731
	広野町分区	500,000	507,500	0	507,500	101.5	523,500
	富岡町分区	300,000	696,200	10,000	706,200	235.4	357,962
	川内村分区	344,000	759,500	0	759,500	220.8	706,000
	大熊町分区	130,000	259,000	0	259,000	199.2	238,000
	浪江町分区	318,000	672,600	0	672,600	211.5	165,000
	葛尾村分区	70,000	179,000	100,000	279,000	398.6	198,000
	相双地区計	3,994,000	6,597,500	110,000	6,707,500	167.9	5,747,793
	郡地区計	49,342,000	50,086,939	126,000	50,212,939	101.8	50,416,332
	地区分区計	237,873,000	223,559,072	3,878,823	227,437,895	95.6	234,818,760



		目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
支部	支部直接(個人)	15,000,000	15,656,314		15,656,314	104.4	51,735,244
	支部直接(法人)	12,000,000		18,159,619	18,159,619	151.3	18,220,832
支部 扱合計		27,000,000	15,656,314	18,159,619	33,815,933	125.2	69,956,076

		目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
一般社資合計		252,873,000	239,215,386		239,215,386	94.6	275,405,654
法人社資合計		12,000,000		22,038,442	22,038,442	183.7	29,369,182
福島県支部合計		264,873,000	239,215,386	22,038,442	261,253,828	98.6	304,774,836

工 社資目標額と実績額の推移

	社資目標額(千円)			社資実績額(円)			達成率(%)
	一般	法人	合計	一般	法人	合計	
令和6年度	252,873	12,000	264,873	239,215,386	22,038,442	261,253,828	98.6
令和5年度	259,104	10,000	269,104	275,405,654	29,369,182	304,774,836	113.3
令和4年度	259,104	10,000	269,104	245,546,061	18,051,702	263,597,763	98.0
令和3年度	259,104	10,000	269,104	261,212,637	27,568,950	288,781,587	107.3
令和2年度	259,104	10,000	269,104	301,752,423	21,837,377	323,589,800	120.2
令和元年度	256,299	10,000	266,299	254,272,806	19,467,118	273,739,924	102.8
平成30年度	256,299	10,000	266,299	281,454,989	22,030,260	303,485,249	114.0
平成29年度	256,299	10,000	266,299	267,308,697	28,601,881	295,910,578	111.1
平成28年度	259,335	10,000	269,335	271,623,533	17,108,292	288,731,825	107.2
平成27年度	255,335	8,000	263,335	276,792,490	21,545,712	298,338,202	113.3
平成26年度	255,335	8,000	263,335	266,524,268	15,934,934	282,459,202	107.3

② 表 彰

ア 社資功労表彰

(ア) 紺綬褒章 【4件】(社資500万円以上の個人並びに1,000万円以上の法人)

市町村	個人	法人
郡山市	1	
須賀川市	1	
大熊町	1	1

(イ) 厚生労働大臣感謝状 【6件】

(同一年度内に社資100万円以上の個人並びに300万円以上の法人)

市町村	個人	法人
郡山市	1	
須賀川市	1	
会津若松市		1
南相馬市	1	
いわき市	1	
アメリカ合衆国		1



(イ) 社長感謝状 【12件】(金色有功章受章後の社資が50万円以上都度)

市町村	個人	法人
福島市		3
田村市	1	
須賀川市	1	
喜多方市	2	

市町村	個人	法人
南相馬市	2	
相馬市		1
いわき市	1	
大熊町	1	

(ロ) 金色有功章 【19件】(社資が50万円以上)

市町村	個人	法人
福島市	1	4
郡山市	4	3
会津若松市	1	
いわき市	1	2

市町村	個人	法人
檜葉町	1	
富岡町	1	
浪江町		1

(ハ) 銀色有功章 【18件】(社資が20万円以上)

市町村	個人	法人
福島市	2	8
二本松市	1	
郡山市	1	
田村市	1	

市町村	個人	法人
南相馬市	1	
いわき市	1	2
中島村		1

イ 業務功労表彰

(ア) 役職功労 【金色有功章1件、銀色有功章1件】

市町村	役職	金色有功章	銀色有功章
郡山市	副地区長	1	
郡山市	協賛委員		1

(イ) 奉仕団 【社長感謝状11件(金色有功章受章後活動年数10年到達の都度)、金色有功章3件(活動年数20年以上)】

市町村	社長感謝状	金色有功章
二本松市		1
会津若松市		2
喜多方市	1	

市町村	社長感謝状	金色有功章
相馬市	1	
いわき市	8	
矢吹町	1	

(ハ) 奉仕団員等奉仕者 【金色有功章78件(活動年数20年以上)、銀色有功章162件(活動年数15年以上)】

市町村	金色有功章	銀色有功章
福島市	1	3
伊達市	4	
二本松市		22
本宮市	5	4
郡山市	3	14
田村市	2	4
白河市		2

市町村	金色有功章	銀色有功章
会津若松市	15	12
喜多方市	1	6
南相馬市	5	3
相馬市		1
いわき市	1	18
桑折町		2
大玉村	1	



市町村	金色有功章	銀色有功章
三春町		2
鏡石町		5
石川町	3	1
玉川村		3
浅川町		1
古殿町	3	5
西郷村	1	1
泉崎村	6	14
棚倉町		9
塙町	8	7
鮫川村	1	1

市町村	金色有功章	銀色有功章
北塩原村	3	4
会津坂下町		2
湯川村	1	
柳津町		3
会津美里町	3	2
金山町		2
南会津町	8	
只見町		7
新地町		2
川内村	3	

(1) 献血者 【金色有功章104件（献血100回以上）、銀色有功章137件（献血70回以上）】

市町村	金色有功章	銀色有功章
福島市	24	33
伊達市	4	8
二本松市		2
本宮市	3	6
郡山市	25	26
田村市	2	1
須賀川市	4	7
白河市	3	5
会津若松市	3	6
喜多方市		3
南相馬市	2	6
相馬市	1	1
いわき市	17	20
川俣町	2	
桑折町	1	1
国見町	1	
三春町	1	2

市町村	金色有功章	銀色有功章
鏡石町	1	
平田村		1
西郷村	2	
棚倉町	1	
猪苗代町	1	
西会津町		1
会津坂下町	1	
湯川村	2	
会津美里町	1	
南会津町		2
下郷町	1	
新地町		2
只見町		1
富岡町	1	
川内村		1
大熊町		1
浪江町		1



③ 地区有功会の結成状況

有功章受章者を会員とする地区（地方・分区）有功会は、現在15地区で結成されており、赤十字の社旨普及と仲間づくり（社員加入促進）を目的として活動を展開し、赤十字活動の支援組織としての役割を担っている。

（令和6年4月1日現在）

名 称	結 成	会長名	会 員 数					事務局	付記
			社資(個)	社資(法)	業務	献血	合計		
1 福島市地区有功会	H6.4.12	小田 長次	17	48	0	0	65	福島市地区	
2 郡山市地区有功会	H5.5.11	遠藤 君子	17	36	35	0	88	郡山市地区	
3 いわき市地区有功会	H5.5.25	猪狩 正明	27	48	0	0	75	いわき市地区	
4 会津若松市地区有功会	S46.5.26	宮森 泰弘	38	8	0	0	46	会津若松市地区	
5 喜多方市地区有功会	S49.10.28	武藤 順夫	83	0	9	32	124	喜多方市地区	
6 田村市地区有功会	H18.3.23	今泉 富代	5	1	9	0	15	田村市地区	
7 相馬市地区有功会	H13.11.22	(欠)	2	3	16	0	21	相馬市地区	
8 伊達地方有功会	H6.3.24	(欠)	3	1	30	2	36	伊達市地区	
9 安達地方有功会	S44.2.15	渡辺 初治	17	15	36	0	68	二本松市地区	
10 県中地区有功会	H17.6.16	—	—	—	—	—	—	県中地区	休会
11 会津地区有功会	H18.5.31	鈴木 政英	52	13	111	175	351	会津地区	
12 南会津地区有功会	S47.4.5	渡部進一郎	24	5	3	0	32	南会津地区	
13 相馬地方有功会	S41.9.3	濱田 幸政	18	11	0	0	29	相双地区	
14 双葉地方有功会	H6.4.19	—	—	—	—	—	—	相双地区	休会
15 猪苗代町分区有功会	H3.1.29	大坂 恒一	17	0	25	35	77	猪苗代町分区	
会津地区にも重複加入している猪苗代町の会員			-17	0	-25	-35	-77		
合 計			303	189	249	209	950		

④ 日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等

名 称	月 日	会 場	参加者(人)
①有功会連合会総会	6月24日(月)	福島市	地区有功会長・事務局28
②紺綬・有功会会長協議会総会	11月6日(水)	盛岡市	県有功会連合会長、支部2
③有功会連合会結成30周年記念行事	11月26日(火)	郡山市	有功会員・事務局80
④有功会運営協議会	令和7年3月12日(水)	福島県支部	有功会長・事務局28

⑤ 組織振興課関係会議・研修会等

名 称	月 日	会 場	参加者(人)
①地区・分区担当課長・担当者会議	4月25日(木)	福島市	担当課長・担当者49
②全国赤十字大会	5月15日(水)	東京都	理事・有功会員・奉仕団員・社資協力者・支部21
③地区・分区新任担当者研修会	5月20日(月)	福島県支部	新任担当者32
④第1ブロック組織振興課長会議	7月5日(木)~6日(金)	山形県支部	参加1
①地区長会議	令和7年1月20日(月)	福島県支部	地区長等28

14 会計報告

① 令和6年度一般会計歳入歳出決算報告

福島県支部

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
社 資 収 入	261,253,828	災 害 救 護 事 業 費	28,782,471
委 託 金 等 収 入	5,773,896	社 会 活 動 費	68,482,489
補 助 金 及 び 交 付 金 収 入	3,689,631	国 際 活 動 費	907,000
貸 付 金 償 戻 金 収 入	6,660,000	指 定 事 業 地 方 振 興 費	3,800,000
雜 収 入	2,685,349	地 区 分 区 交 付 金 支 出	44,005,396
前 年 度 繰 越 金	78,281,472	社 業 振 興 費	26,153,925
		基 盤 整 備 交 付 金 · 補 助 金 支 出	70,000
		償 戻 金 支 出	6,660,000
		積 立 金 支 出	8,606,004
		総 務 管 理 費	43,683,090
		資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	15,316,290
		本 社 送 納 金 支 出	37,778,074
計	358,344,176	計	284,244,739
		収 入 支 出 差 引 額	74,099,437

② 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告

福島赤十字病院

収益的収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
医 業 収 益	7,688,109,793	医 業 費 用	7,446,265,833
医 業 外 収 益	375,944,213	医 業 外 費 用	49,904,159
医 療 社 会 事 業 収 益	1,654,176	医 療 奉 仕 費 用	119,644,603
付 帯 事 業 収 益	39,226,017	付 帯 事 業 費 用	35,171,749
特 別 利 益	41,649	特 別 損 失	14,798,946
計	8,104,975,848	計	7,665,785,290
		収 入 支 出 差 引 額	439,190,558

資本的収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
固 定 負 債	8,997,400	固 定 資 産	117,681,304
そ の 他 資 本 収 入	671,945,187	借 入 金 等 償 戻	563,261,283
計	680,942,587	計	680,942,587
		収 入 支 出 差 引 額	0

15 日本赤十字社福島県支部役員名簿

(令和7年7月1日現在)

役職名	氏名	公職名	役職名	氏名	公職名
支部長	内堀 雅雄	福島県知事	評議員	渡辺真理子	本宮市保健福祉部長
副支部長	佐藤 宏隆	福島県副知事	//	押山 利一	大玉村長
監査委員	横山 克英	会津若松市地区有功会副会長	//	澤村 和明	平田村長
//	菅野 裕之	元福島県保健福祉部長	//	坂本 浩之	三春町長
//	小野佐重喜	福浜大一建設(株)取締役常務執行役員	//	高橋 廣志	西郷村長
本社理事	飯間香保子	赤十字奉仕団指導講師	//	宮田 秀利	塙町長
代議員	飯間香保子	赤十字奉仕団指導講師	//	佐藤 淳一	磐梯町長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長	//	杉山 純一	会津美里町長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長	//	馬場 一久	南会津地区有功会副会長
//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長	//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	山崎 久夫	郡山市社会福祉協議会副会長	//	鈴木 愛子	広野町赤十字奉仕団委員長
//	安澤 莊一	白河赤十字奉仕団委員長	//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
評議員	後藤 孝信	福島市健康福祉部長	//	芳見 弘一	福島民報社代表取締役社長
//	高村 劍	福島市地区有功会理事	//	高野 武彦	福島県社会福祉協議会副会長
//	阿部 隆	福島市地区有功会監事	//	野崎広一郎	福島民友新聞社代表取締役社長・編集主幹
//	飯沼 育子	福島市湯野赤十字奉仕団委員長	//	穂積 浩	青少年赤十字福島県指導者協議会会長
//	山口 勝彦	会津若松市健康福祉部長	//	平栗 辰也	福島県赤十字安全奉仕団委員長
//	酒井 紹雄	会津地区青少年赤十字賛助奉仕団顧問	支部参与	菅野 俊彦	福島県保健福祉部長
//	太田 健三	郡山市社会福祉協議会会長	//	長尾 憲宏	福島県保健福祉部保健福祉総務課長
//	佐久間喜重	郡山市献血推進協会会長	//	本多 博	福島県保健福祉部社会福祉課長
//	門澤 康成	郡山市保健福祉部長	//	風間 秀元	福島県保健福祉部薬務課長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長	//	細川 了	福島県危機管理部長
//	荒川 正勝	いわき市社会福祉協議会会長	//	佐久間止揚	福島県危機管理部災害対策課長
//	佐々木 篤	いわき市保健福祉部長	//	鈴木 竜次	福島県教育委員会教育長
//	久野 征浩	平地区保健福祉センター所長	//	高橋 浩一	福島県教育庁政策監
//	油座 順子	いわき市赤十字奉仕団連絡協議会副会長	//	遠藤 裕一	福島県教育庁社会教育課長
//	小峰由紀子	白河市保健福祉部長	//	佐藤 敏宏	福島県教育庁参事兼義務教育課長
//	祓川 千寿	須賀川市市民福祉部長	//	星 光政	元日赤県支部事務局長
//	志田 公司	喜多方市社会福祉協議会会長	//	谷口 幸子	元日赤県支部事務局長
//	武澤美保子	相馬市社会福祉協議会次長	//	高萩 秀則	元日赤県支部事務局長
//	遠藤 吉次	二本松市社会福祉協議会副会長	//	太田 久雄	元日赤県支部事務局長
//	矢吹 哲博	田村市保健福祉部長	//	穴沢 正行	元日赤県支部事務局長
//	村上 勇一	南相馬市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長
//	大河原克仁	伊達市健康福祉部長	//	篠木 敏明	元日赤県支部事務局長

資料編

令和6年度日本赤十字社福島県支部現勢

(令和7年3月31日現在)

■沿革

- 明治22年（1889） 6月…日本赤十字社福島県委員部発足
明治27年（1894） 1月…福島県委員部を福島支部と改称
昭和18年（1943） 8月…福島療院開設
昭和19年（1944） 8月…福島療院を福島赤十字病院と改称
昭和27年（1952） 10月…日本赤十字社福島県支部と改称
昭和37年（1962） 2月…福島赤十字病院移転新築
昭和46年（1971） 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
昭和46年（1971） 4月…福島県赤十字血液センター開設
昭和56年（1981） 4月…福島県会津赤十字血液センター開設
昭和61年（1986） 4月…福島県いわき赤十字血液センター開設
昭和63年（1988） 11月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所開設
平成10年（1998） 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
平成10年（1998） 4月…福島県赤十字血液センター移転新築
平成11年（1999） 11月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所開設
平成13年（2001） 9月…福島県赤十字血液センター原町供給出張所開設
平成18年（2006） 7月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所移転（リニューアル）
平成23年（2011） 11月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
平成24年（2012） 3月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所移転
平成27年（2015） 6月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
平成29年（2017） 2月…福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所移転
平成31年（2019） 1月…福島赤十字病院移転新築開院

■社員……………（個人）3,435名、（法人）993法人

■評議員……………39名

■役員
 支部長 内堀 雅雄 副支部長 佐藤 宏隆
 監査委員 3名 参与 17名

■施設及び職員

施設名	所在地	電話番号	職員数
日本赤十字社福島県支部	〒960-1197 福島市永井川字北原田17	024-545-7997	16名
福島赤十字病院	〒960-8530 福島市八島町7-7	024-534-6101	597名
福島県赤十字血液センター	〒960-1198 福島市永井川字北原田17	024-544-2550	60名
福島県赤十字血液センター会津出張所	〒965-0003 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-6	0242-24-6650	13名
福島県赤十字血液センターいわき出張所	〒970-8044 いわき市中央台飯野五丁目1-1	0246-29-5624	18名
郡山駅前出張所（郡山駅前献血ルーム）	〒963-8002 郡山市駅前一丁目6番10号	024-925-2638	17名
福島県赤十字血液センター郡山供給出張所	〒963-8044 郡山市備前館一丁目132番地	024-927-5199	9名
福島県赤十字血液センター相馬供給出張所	〒976-0152 相馬市栗津字栗津18番地7	0244-35-6066	3名



■県市町村組織

	合計数	郡	市	町 村
地 区	19	6	13	—
分 区	108	—	62	46
計	127	6	75	46

■災害救護

救護班・救護員	8班・319名
無線局	基地局 2局、移動局 51局
救援車両	救急車 支部1台、病院2台 医師派遣用自動車 支部1台、病院1台 災害救援車 支部8台、病院1台
救援物資 (在庫数)	毛布 5,251枚 バスタオル 2,533枚 緊急セット 2,962個 安眠セット 472個 タオルケット 889枚

■医療事業

施 設	設 名	福島赤十字病院
診 療 科	・ 病 床 総 数	26科 296床
患 者	数	入院 88,743名／1日平均 243.1名 外来 119,521名／1日平均 493.9名

■血液事業

献 血 者 数		血液製剤供給 (200mL 換算)	
成 分 献 血	21,398名	赤 血 球 製 劑	103,879単位
400mL 献 血	50,752名	血 浆 製 劑	27,661単位
200mL 献 血	2,062名	血 小 板 製 劑	109,770単位
合 計	74,212名	合 計	241,310単位

■青少年赤十字

	加盟校数	メンバーカー
幼 稚 園	16校	421名
小 学 校	373校	70,554名
中 学 校	198校	35,428名
義務教育学校	9校	1,004名
高 等 学 校	32校	5,344名
特別支援学校	5校	523名
専 修 学 校	1校	110名
合 計	634校	113,384名

■赤十字奉仕団

	団 数	団員数
地 域	104団	7,922名
青 年	4団	138名
特 殊	34団	1,197名
合 計	142団	9,257名
指 導 講 師		8名

■講習・防災セミナー普及活動

	指 導 員	受講者数
救 急 法	100名	7,546名
水 上 安 全 法	16名	2,690名
幼 児 安 全 法	39名	774名
健 康 生 活 支 援 講 習	28名	651名
防 災 セ ミ ナ ー		5,138名
合 計(重複除く)	183名	16,799名

■看護師養成

学 校	学 生 数
日本赤十字秋田看護大学	5名
日本赤十字看護大学	0名
日本赤十字北海道看護大学	1名
合 計	6名

■国際活動

第1ブロック 支部参加事業	総 額	6,000,000円 (907,000円)
	救急法普及支援事業 ラオス	1,500,000円 (226,000円)
	青少年赤十字海外支援事業 バヌアツ	1,500,000円 (227,000円)
	気候変動等レジリエンス強化事業 ルワンダ	1,500,000円 (227,000円)
	気候変動対策事業 アフガニスタン	1,500,000円 (227,000円)

※(内は福島県支部の負担金額)

～あなたの思いを赤十字へ～

日赤福島県支部は、国や県からの補助金等を受けずに、ご寄付いただいた活動資金で組織を運営し、事業を行っております。



赤十字へのご寄付には税制上の優遇措置があるほか、表彰制度を設けております。

また、遺贈・相続財産のご寄付も承っております。ご案内パンフレットをお送りしておりますので、ご希望の方は組織振興課（☎024-545-7998）までお問い合わせください。



お住まいの地域でのご協力のほか、次の方法でもご寄付を受け付けています

銀行・郵便局窓口で	口座引き落として	クレジットカード・Amazon Payで	スマホアプリで	遺贈や相続財産によるご寄付も承っています
<p>専用の振込用紙（振込手数料無料）をお送りいたしますので、お電話（組織振興課：024-545-7998）または福島県支部ホームページ内お問い合わせフォームよりご連絡ください。</p>	<p>2次元コードより申込書をダウンロードし、必要事項ご記載のうえご郵送ください。ご寄付の頻度（毎月・年1回など）や引き落とし月がお選びいただけます。</p>	<p>2次元コードからの登録により、クレジットカードやAmazon Payでご寄付いただけます。ご寄付の頻度（毎年・毎月・今回のみ）がお選びいただけます。</p>	<p>2次元コードよりスマートフォンアプリをダウンロードして、ご本人様の情報を入力後、募金アイコンから日本赤十字社へご寄付いただけます。</p>	<p>日本赤十字社に寄付した財産は、相続税がかかりません。ご案内のパンフレットをお送りしておりますので、組織振興課までお問い合わせください。</p>

表彰制度のご案内・税制上の優遇措置について

特別社員 <p>一時又は数次（10年以内）に2万円以上のご協力を下さった方</p>	<p>記念品（三角巾入り赤十字ポーチ）</p>	支部長感謝状 <p>一時又は累計で10万円以上20万円未満のご協力を下さった方</p>
銀色有功章 <p>一時又は累計で20万円以上50万円未満のご協力を下さった方</p>	<p>金色有功章 章記</p> <p>一時又は累計で50万円以上のご協力を下さった方</p>	社長感謝状 <p>金色有功章受章後のご協力が50万円に達した都度（分納額の合算可）</p>

※年間100万円以上のご協力については、国の表彰（厚生労働大臣感謝状、紺綬褒章）がございます。詳しくは当支部までお問い合わせください。

●日本赤十字社への社費や寄付金に適用される税制上の優遇措置（概要）

納入者区分	区分	関係根拠法令	適用期間	措置の内容
個人	所得税の控除	所得税法第78条第2項第3号	通年	寄付金の全額（ただし、上限は寄付者の年間所得総額の40%まで）から2千円を差し引いた額が、寄付者の年間所得総額から控除されます。
	個人住民税の控除	地方税法施行令第7条の17第3号	通年 (募集金額上限に達した時点で終了)	寄付金の全額（ただし、上限は寄付者の年間所得総額の30%まで）から2千円を差し引いた額の10%が寄付者の住民税額から控除されます。（居住地の都道府県支部に寄付の場合のみ適用）
	相続税の非課税	租税特別措置法第70条	通年	寄付した相続財産の価格は、相続人の納めるべき相続税の課税価格に算入されません。
法人	法人税の控除（指定寄付金）	法人税法第37条第3項第2号に基づく財務省告示	4月～9月 (募集金額上限に達した時点で終了)	寄付金の全額が、法人の寄付金損金算入限度額にかかわりなく損金の額に算入されます。
	法人税の控除（特定公益増進法人に対する寄付金）	法人税法第37条第4項	通年	通常の寄付金の損金算入限度額とあわせて、別枠で算出した特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額が損金の額に算入されます。

日本赤十字社 福島県支部

〒960-1197 福島市永井川字北原田17

□総務課 ☎(024)545-7997 FAX(024)545-7923

□組織振興課 ☎(024)545-7998 FAX(024)545-7924

□事業推進課 ☎(024)545-7996 FAX(024)545-7923

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima>